

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

旭医大第791 号  
令和 6年 10月 4日  
開設者名 国立大学法人旭川医科大学  
学長 西川 祐司

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
氏名	国立大学法人旭川医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

旭川医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
電話(0166)65-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
神経内科は脳神経内科、血液内科は血液・腫瘍内科、内分泌内科及び代謝内科は糖尿病・内分泌内科、感染症内科は呼吸器内科、アレルギー科は耳鼻いんこう科が当該医療の提供を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
心臓血管外科は心臓外科、内分泌外科は頭頸部外科が当該医療の提供を行っている。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	糖尿病・内分泌内科	3	血液・腫瘍内科	4	頭頸部外科	5	リハビリテーション科
6	病理診断科	7	形成外科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31				571	602

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	274	123	371.9
歯科医師	7	6	11.8
薬剤師	39	2	40.2
保健師	0	0	0
助産師	35	0	35
看護師	661	16	672.7
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	2	2.7
管理栄養士	10	0	10

職種	員数
看護補助者	36
理学療法士	26
作業療法士	9
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	21
栄養士	10
歯科技工士	2
診療放射線技師	39

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	48
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	8
その他の技術員	35
事務職員	142
その他の職員	45

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	57	眼科専門医	11
外科専門医	36	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	3	放射線科専門医	11
小児科専門医	26	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	13
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	13
産婦人科専門医	12	救急科専門医	7
		合計	227

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 東 信良 ) 任命年月日 令和 5 年 7 月 1 日

令和元年7月1日から令和3年6月30日までの期間、副病院長兼医療安全管理部長に就任。  
 令和5年7月1日から病院長、医療事故防止対策委員会(現:医療安全管理委員会)委員長に就任。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	459.1 人	5.82 人	464.92 人
1日当たり平均外来患者数	1415.79 人	47.64 人	1463.42 人
1日当たり平均調剤数		638.1	剤
必要医師数		124	人

必要歯科医師数	1	人
必要薬剤師数	15	人
必要(准)看護師数	262	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	579 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	19 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 47 ㎡		病床数	4 床		
	[移動式の場合] 台数 3 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 182 ㎡					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	388 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	総合血液学検査装置 ADVIA2120		
細菌検査室	80 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査システム MIC2000		
病理検査室	408 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生物顕微鏡、バーチャルスライド装置		
病理解剖室	93 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	床埋込式デジタル遺体計量器 SH-FD		
研究室	1188 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動免疫染色装置		
講義室	624 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 3 室	收容定員	553 人	
図書室	3541 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 18 室	蔵書数	16万 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	98.8	%	逆紹介率	116.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11167		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14518		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1128		人
	D: 初診の患者の数		12439		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	------	---------------

石井 良直	市立旭川病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	(注)1.
黒川 伸一	旭川市立大学		法律に関する識見を有する者	無	(注)1.
鈴木 歩	自営業		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	(注)2.

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学ホームページに掲載している。	







(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	56	球脊髄性筋萎縮症	73	ベーチェット病	73
13	57	筋萎縮性側索硬化症	54	特発性拡張型心筋症	54
2	58	脊髄性筋萎縮症	89	肥大型心筋症	89
0	59	原発性側索硬化症	1	拘束型心筋症	1
7	60	進行性核上性麻痺	15	再生不良性貧血	15
115	61	パーキンソン病	2	自己免疫性溶血性貧血	2
2	62	大脳皮質基底核変性症	2	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
0	63	ハンチントン病	36	特発性血小板減少性紫斑病	36
0	64	神経有棘赤血球症	2	血栓性血小板減少性紫斑病	2
3	65	シャルコー・マリー・トゥース病	5	原発性免疫不全症候群	5
41	66	重症筋無力症	31	IgA腎症	31
0	67	先天性筋無力症候群	23	多発性嚢胞腎	23
58	68	多発性硬化症／視神経脊髄炎	4	黄色靱帯骨化症	4
14	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	後縦靱帯骨化症	28
4	70	封入体筋炎	1	広範脊柱管狭窄症	1
2	71	クロー・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	71
16	72	多系統萎縮症	29	下垂体性ADH分泌異常症	29
30	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	0	下垂体性TSH分泌亢進症	0
16	74	ライゾーム病	9	下垂体性PRL分泌亢進症	9
0	75	副腎白質ジストロフィー	6	クッシング病	6
7	76	ミトコンドリア病	5	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	5
9	77	もやもや病	18	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	18
0	78	プリオン病	76	下垂体前葉機能低下症	76
2	79	亜急性硬化性全脳炎	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	0
0	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
3	81	HTLV-1関連脊髄症	17	先天性副腎皮質酵素欠損症	17
0	82	特発性基底核石灰化症	2	先天性副腎低形成症	2
30	83	全身性アミロイドーシス	2	アジソン病	2
0	84	ウルリッヒ病	112	サルコイドーシス	112
0	85	遠位型ミオパチー	26	特発性間質性肺炎	26
0	86	ベスレムミオパチー	25	肺動脈性肺高血圧症	25
0	87	自己食空胞性ミオパチー	0	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群	17	慢性血栓性肺高血圧症	17
15	89	神経線維腫症	4	リンパ脈管腫症	4
9	90	天疱瘡	15	網膜色素変性症	15
3	91	表皮水疱症	0	バッド・キアリ症候群	0
22	92	膿疱性乾癬(汎発型)	0	特発性門脈圧亢進症	0
0	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	61	原発性胆汁性胆管炎	61
0	94	中毒性表皮壊死症	10	旧病名(原発性胆汁性肝硬変) 原発性硬化性胆管炎	10
23	95	高安動脈炎	35	自己免疫性肝炎	35
11	96	巨細胞性動脈炎	255	クローン病	255
12	97	結節性多発動脈炎	259	潰瘍性大腸炎	259
43	98	顕微鏡的多発血管炎	3	好酸球性消化管疾患	3
36	99	多発血管炎性肉芽腫症	2	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
31	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
8	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
8	102	バージャー病	0	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
6	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	CFC症候群	2
268	104	全身性エリテマトーデス	1	コステロ症候群	1
117	105	皮膚筋炎／多発性筋炎	2	チャージ症候群	2
133	106	全身性強皮症	10	クリオピリン関連周期熱症候群	10
31	107	混合性結合組織病	1	若年性特発性関節炎	1
183	108	シェーグレン症候群	0	旧病名(全身型若年性特発性関節炎) TNF受容体関連周期性症候群	0
14	109	成人スチル病	0	非典型溶血性尿毒症症候群	0
0	110	再発性多発軟骨炎	0	フラウ症候群	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
113	筋ジストロフィー	9	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	14
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	2
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	1
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	3	187	歌舞伎症候群	2
138	神経細胞移動異常症	3	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	2	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	3
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	5	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	9	195	ヌーナン症候群	3
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	2
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	5	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	5
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	3

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	255	複合カルボキシラーゼ欠損症
212	三尖弁閉鎖症	9	256	筋型糖原病
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	257	肝型糖原病
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症
215	ファロー四徴症	12	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症
216	両大血管右室起始症	12	260	シトステロール血症
217	エプスタイン病	1	261	タンジール病
218	アルポート症候群	1	262	原発性高カイロミクロン血症
219	ギャロウェイ・モフト症候群	2	263	脳髄黄色腫症
220	急速進行性糸球体腎炎	11	264	無βリポタンパク血症
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	265	脂肪萎縮症
222	一次性ネフローゼ症候群	64	266	家族性地中海熱
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	267	高IgD症候群
224	紫斑病性腎炎	6	268	中條・西村症候群
225	先天性腎性尿崩症	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎
227	オスラー病	8	271	強直性脊椎炎
228	閉塞性細気管支炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症
230	肺胞低換気症候群	1	274	骨形成不全症
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	275	タナトフォリック骨異形成症
232	カーニー複合	0	276	軟骨無形成症
233	ウォルフラム症候群	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)
235	副甲状腺機能低下症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病)
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	282	先天性赤血球形成異常性貧血
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	283	後天性赤芽球癆
240	フェニルケトン尿症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血
241	高チロシン血症1型	0	285	ファンconi貧血
242	高チロシン血症2型	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血
243	高チロシン血症3型	0	287	エプスタイン症候群
244	メーブルシロップ尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症
245	プロピオン酸血症	0	289	クロンカイト・カナダ症候群
246	メチルマロン酸血症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症
247	イン吉草酸血症	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	292	総排泄腔外反症
249	グルタル酸血症1型	0	293	総排泄腔遺残
250	グルタル酸血症2型	0	294	先天性横隔膜ヘルニア
251	尿素サイクル異常症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	296	胆道閉鎖症
253	先天性葉酸吸収不全	1	297	アラジール症候群
254	ポルフィリン症	0	298	遺伝性痔炎

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
299	嚢胞性線維症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
300	IgG4関連疾患	8	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
301	黄斑ジストロフィー	1	335	ネフロン癆	0
302	レーベル遺伝性視神経症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
303	アッシュー症候群	0	337	ホモシスチン尿症	0
304	若年発症型両側性感音難聴	1	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
305	遅発性内リンパ水腫	0			
306	好酸球性副鼻腔炎	21			
307	カナバン病	0			
308	進行性白質脳症	0			
309	進行性ミオクローヌステんかん	0			
310	先天異常症候群	0			
311	先天性三尖弁狭窄症	0			
312	先天性僧帽弁狭窄症	0			
313	先天性肺静脈狭窄症	2			
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0			
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／ LMX1B関連腎症	0			
316	カルニチン回路異常症	0			
317	三頭酵素欠損症	0			
318	シトリン欠損症	0			
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0			
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0			
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0			
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0			
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0			
324	メチルグルタコン酸尿症	0			
325	遺伝性自己炎症疾患	0			
326	大理石骨病	0			
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因による ものに限る。)	2			
328	前眼部形成異常	0			
329	無虹彩症	1			
330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄 症	4			
331	特発性多中心性キャッスルマン病	1			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	338
合計患者数(人)	3199

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・ハイリスク分娩管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療感染対策加算3	・バイオ後続品使用体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算
・診療録管理体制加算3	・認知症ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・排尿自立支援加算
・看護補助加算	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・救命救急入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・新生児特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・報告書管理体制加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・地域連携診療計画加算
・がん患者指導管理料イ	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料(歯科)
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・歯科治療時医療管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅患者訪問褥瘡管理指導料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・一般不妊治療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・下肢創傷処置管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・院内トリアージ実施料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・外来腫瘍化学療法診療料1	・染色体検査の注2に規定する基準
・連携充実加算	・骨髄微小残存病変量測定
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん治療連携計画策定料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来排尿自立指導料	・先天性代謝異常症検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・精密触覚機能検査
・検体検査管理加算(IV)	・画像診断管理加算1
・国際標準検査管理加算	・遠隔画像診断
・遺伝カウンセリング加算	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・胎児心エコー法	・CT撮影及びMRI撮影
・ヘッドアップティルト試験	・冠動脈CT撮影加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・心臓MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・単線維筋電図	・外来化学療法加算1
・脳波検査判断料1	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・コンタクトレンズ検査料1	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・小児食物アレルギー負荷検査	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・歯科口腔リハビリテーション料2
・経頸静脈的肝生検	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・経気管支凍結生検法	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・硬膜外自家血注入	・角膜移植術(内皮移植加算)
・人工腎臓	・羊膜移植術
・導入期加算1	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ストーマ合併症加算	・網膜再建術
・磁気による膀胱等刺激法	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・口腔粘膜処置	・人工中耳植込術
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・歯科技工加算1及び2	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・緊急穿頭血腫除去術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・気管支バルブ留置術
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁置換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・経皮的僧帽弁クリップ術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・体外衝撃波胆石破碎術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体部分肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・同種死体小腸移植術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両室ベージング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ベージング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ベージング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ベージング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・同種死体腎移植術
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・生体腎移植術
・経皮的下肢動脈形成術	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・レーザー機器加算
・尿道狭窄グラフト再建術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・精巣温存手術	・放射線治療専任加算
・精巣内精子採取術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・画像誘導密封小線源治療加算
・体外式膜型人工肺管理料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・再製造単回使用医療機器使用加算	・デジタル病理画像による病理診断
・輸血管理料Ⅰ	・病理診断管理加算2
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科矯正診断料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・看護職員処遇改善評価料69
・歯周組織再生誘導手術	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)





(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
臨床検体遺伝子解析に基づいた静脈グラフト内膜肥厚制御方法の大動物モデルでの確立	東 信良	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	3,500,000	補委	文部科学省(科研費)
電気けいれん療法の抗神経炎症作用の包括的解明	橋岡 禎征	精神医学講座	3,700,000	補委	文部科学省(科研費)
冠動脈バイパス術のグラフト材としての生体吸収性ナノファイバークラフトの研究	紙谷 寛之	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	3,500,000	補委	文部科学省(科研費)
アレルギー疾患におけるプロバイオティクス由来抗アレルギー物質による新規治療開発	嘉島 伸	内科(消化器)	500,000	補委	文部科学省(科研費)
機能的電気刺激による声帯の再運動化と喉頭機能の回復に関する研究	片田 彰博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	600,000	補委	文部科学省(科研費)
統合失調症と睡眠時無呼吸の関連と睡眠呼吸障害治療による精神症状改善効果の検討	田村 義之	精神医学講座	600,000	補委	文部科学省(科研費)
胸部X線写真上の全自動異常検出及び診断支援システムの開発	沖崎 貴琢	放射線医学講座	400,000	補委	文部科学省(科研費)
SIFD病態解明のためのTRNT1機能解析	長森 恒久	小児科	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
中枢神経系による腸管バリア制御機序の解明とLeaky gut治療への応用	石王 応知	総合診療部	600,000	補委	文部科学省(科研費)
腸管外疾患治療に有効な有益菌由来分子の同定と作用機序解明に基づく新薬開発基盤研究	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器内科学分野)	600,000	補委	文部科学省(科研費)
腫瘍進展を制御する長鎖ncRNAの機能解析と細胞外小胞を用いた診断・治療への応用	高橋 賢治	内科(消化器)	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
肺炎・肺線維症におけるミトコンドリアDNAダメージ関連分子パターンの機能解析	奥村 俊介	内科(呼吸器・脳神経)	600,000	補委	文部科学省(科研費)
がんゲノム構造異常による、がん遺伝子の活性化メカニズムに関する研究	佐々木 高明	内科(呼吸器・脳神経)	600,000	補委	文部科学省(科研費)
生体吸収性小口径大血管の糖尿病モデルにおける機能評価と実用化基盤の構築	菊池 悠太	外科(心臓大血管)	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
次世代再生医療ダイレクト・リプログラミングによる新規リンパ管再生治療法の開発	齊藤 幸裕	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	700,000	補委	文部科学省(科研費)
心筋再生治療を目的としたがん原遺伝子Mycに対する分裂抵抗性メカニズムの解明	小山 恭平	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	600,000	補委	文部科学省(科研費)
アデノ随伴ウイルスを用いた痛みの遺伝子治療の基礎的基盤の構築	川田 大輔	麻酔・蘇生学講座	900,000	補委	文部科学省(科研費)
モデルラットを用いたHIV関連神経障害の機序解明と漢方治療、遺伝子治療への応用	佐藤 泉	麻酔科蘇生科	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)
心臓手術を受ける患者におけるレミゾラムの薬物動態モデルの算出	菅原 亜美	麻酔科蘇生科	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)
敗血症の心筋代謝制御にかかわるβ3受容体とスフィンゴシン1リン酸の役割	岡田 基	救急医学講座	200,000	補委	文部科学省(科研費)

計20

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
間質性膀胱炎に対する創薬を目指した幹細胞濾過液の有効性の検討	松本 成史	臨床研究支援センター	600,000	補委	文部科学省(科研費)
継続パーキンソン病進行抑制薬の臨床開発候補化合物取得	田崎 嘉一	薬剤部	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
肺がんの背景肺に潜むゲノム・エピゲノム異常の徹底的マッピングによる発がん機序の解明	谷野 美智枝	病理部	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)
脳内ドバミントランスポーターイメージにおける時短収集に伴う新たな定量解析法の開発	中山 理寛	放射線医学講座	500,000	補委	文部科学省(科研費)
乾燥臍帯を用いたGATA1遺伝子解析-TAMの診断スコアリングシステム構築	岡本 年男	周産母子センター	600,000	補委	文部科学省(科研費)
ヒト病理検体と疾患モデル細胞およびマウスを用いたNBAS遺伝子異常症の病態解明	鈴木 滋	小児科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)
ハプロ不全で発症するGLUT1欠損症の治療薬開発:既承認薬ライブラリーからの選別	高橋 悟	小児科学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
有益菌由来活性分子を用いた継続バレット食道癌予防・治療法開発の基盤研究	盛一 健太郎	内科学講座(消化器内科学分野)	800,000	補委	文部科学省(科研費)
急性腎障害から慢性腎臓病進展におけるDicerの役割解明と継続治療標的の探索	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	700,000	補委	文部科学省(科研費)
糖尿病循環障害:血流動態的変動指標の確立	滝山 由美	内科学講座(内分泌・代謝・膠原病内科学分野)	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)
ケラチン遺伝子変異の違いによる単純型表皮水疱症の病態への影響と個別化医療の開発	岸部 麻里	皮膚科学講座	700,000	補委	文部科学省(科研費)
腹部手術後イレウスと術後せん妄に対する継続治療法の探究	野津 司	総合診療部	400,000	補委	文部科学省(科研費)
TP53-RAS/RAF経路のクロストークに基づく局所進行直腸癌の術前治療戦略	庄中 達也	外科学講座(消化管外科学分野)	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)
包括的高度慢性下肢虚血が与える自家静脈グラフトへの分子細胞学的影響	菊地 信介	外科(血管・呼吸・腫瘍)	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
生体吸収性小口径人工血管の長期開存性担保の為の新生内膜肥厚の検討	筒井 真博	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	700,000	補委	文部科学省(科研費)
遠赤外線照射による熱ショック蛋白を介した血管内膜肥厚抑制の機序解明	内田 大貴	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)
急性大動脈解離に伴う肺障害に対する好中球エラストラーゼ阻害薬の作用機序の基礎解析	白坂 知識	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
神経障害性疼痛における妊娠が及ぼすGABAシグナル伝達機構の解明と治療薬への応用	小野寺 美子	緩和ケア診療部	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)
臨床応用を目指した痛みの遺伝子治療の基盤的研究開発	神田 浩嗣	麻酔・蘇生学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)
定量的MRIによる神経膠腫の分子診断と可視化技術の開発	木下 学	脳神経外科学講座	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)

計40

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
脚橋被蓋核-橋延髄網様体および前庭神経核投射系による姿勢制御機構の解明	福山 秀青	脳神経外科学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
排泄障害への新戦略提言を目指した抗パーキンソン病薬の膀胱・腸管への作用の検討	橋田 岳也	腎泌尿器外科学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)
継続頭頸部癌免疫療法開発に向けた胎盤形成分子PEG10の発現・機能・癌抗原性解析	小松田 浩樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)
扁桃における糖鎖不全IgAとT細胞サブセットを中心としたIgA腎症の病態解明	寒風澤 知明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	300,000	補委	文部科学省(科研費)
ナノ粒子点眼による糖尿病網膜症に対する新規低侵襲治療法の確立	長岡 泰司	眼科学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
妊産婦の骨格筋量が産後のメンタルヘルスに与える影響の解明	中西 研太郎	産婦人科学講座	100,000	補委	文部科学省(科研費)
ビッグデータの融合解析を基盤にした尿細管保護薬の開発	中馬 真幸	薬剤部	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
リボソームを捕捉したマクロファージのMDSC様細胞への変容に関わる分子基盤の解明	吉田 陽一郎	小児科学講座	1,800,000	補委	文部科学省(科研費)
小児・AYA世代がん白血病パイオバンクを活用した難治性白血病の治療開発	更科 岳大	腫瘍センター	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)
血漿遊離核酸マルチレイヤー解析の自己免疫性肺炎診断・活動性評価への応用	岩本 英孝	内科(消化器)	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
全臓のゲノム異常監視による膀胱癌術後再発の予測	今井 浩二	外科学講座(肝胆膵・移植外科学分野)	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)
Mycを用いた心筋細胞分裂誘導メカニズムの解明と心筋再生治療の基盤構築	広藤 愛菜	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)
移植後早期に完全自家血管化する小口径人工血管の開発	國岡 信吾	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)
肺癌胸膜播種性病変に対するアミノプリン酸の蛍光特性を利用した高精度診断法の開発	北田 正博	乳腺疾患センター	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)
神経特異性ベクターシステムを利用した痛みの遺伝子治療の実用化基盤の構築	神田 恵	麻酔・蘇生学講座	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
扁桃病巣疾患における基礎的、臨床的エビデンスの構築	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)
TRK阻害薬を用いた頭頸部癌およびその神経浸潤と免疫逃避に対する新規治療法の開発	脇坂 理紗	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
頭頸部癌特異的T細胞を活用した複合型免疫療法の開発	熊井 琢美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)
医療職経験のない臨床研究支援専門職がアカデミアで直面する困難さの分析	神山 直也	臨床研究支援センター	800,000	補委	文部科学省(科研費)
腸内細菌叢を標的とした新たな肝細胞癌術後再発制御法の開発	島田 慎吾	外科(肝胆膵・移植)	600,000	補委	文部科学省(科研費)

計60

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
GNAS経路からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍関連膵癌のバイオマーカーと治療標的の探索	河端 秀賢	内科学講座(消化器内科学分野)	200,000	補委 文部科学省(科研費)
表皮におけるスフィンゴシン-1リン酸受容体の機能解析	井川 哲子	皮膚科学講座	200,000	補委 文部科学省(科研費)
新規SNPに基づくSGLT2阻害薬によるNASH個別化医療の開発	中嶋 駿介	救急医学講座	800,000	補委 文部科学省(科研費)
SGPL1遺伝子変異を標的とした新規大腸癌治療の開発	高橋 慶太郎	内科学講座(消化器内科学分野)	500,000	補委 文部科学省(科研費)
心臓MRIによるAYA世代のがんサバイバーの潜在的な筋障害の早期発見、治療の検討	岡 秀治	小児科学講座	300,000	補委 文部科学省(科研費)
IgH遺伝子再構成とRAS変異を標的とした多発性骨髄腫の低侵襲診断	山本 昌代	内科(血液)	1,100,000	補委 文部科学省(科研費)
アミレプリン酸を利用したトリプルネガティブ乳癌における早期再発診断に関する検討	岡崎 智	内科(呼吸器・脳神経)	1,200,000	補委 文部科学省(科研費)
胆道癌における形態別にみた上皮内病変の胆管内分布とclonality	高橋 裕之	外科学講座(肝胆膵・移植外科学分野)	1,100,000	補委 文部科学省(科研費)
有益微生物由来分子を用いた小児白血病治療薬の開発の基盤研究	小西 弘晃	消化器先端医学講座	1,500,000	補委 文部科学省(科研費)
EGFR遺伝子変異陽性肺癌におけるアデニン経路を活用した免疫療法の開発	吉田 遼平	内科(呼吸器・脳神経)	900,000	補委 文部科学省(科研費)
ROR1を標的とした頭頸部癌に対する癌免疫療法	野崎 結	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,700,000	補委 文部科学省(科研費)
骨格筋組織維持における毛細血管幹細胞の多分化能を規定するNinjurin1の役割	鹿野 耕平	内科(呼吸器・脳神経)	1,100,000	補委 文部科学省(科研費)
プロバイオティクス由来の免疫活性物質による継続肝癌免疫療法の開発	太田 雄	内科(消化器)	1,100,000	補委 文部科学省(科研費)
微量残余検体中のゲノム異常を高感度検出するオンサイトがん診断の検討	林 明宏	内科学講座(消化器内科学分野)	1,700,000	補委 文部科学省(科研費)
乳癌患者におけるトランスクリプトーム関連心毒性の継続バイオマーカーlncRNAの探索	青沼 達也	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,100,000	補委 文部科学省(科研費)
糖尿病病態下の大血管リモデリングに対する継続血管形成因子Ninjurin1の役割	堀内 至	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,400,000	補委 文部科学省(科研費)
冠動脈プラーク内血管の三次元解析によるプラーク不安定化に関わる血管形成因子の同定	養島 暁帆	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,200,000	補委 文部科学省(科研費)
糖尿病の創傷治癒遅延におけるNinjurin-1の役割解明	松尾 梨沙	皮膚科学講座	1,300,000	補委 文部科学省(科研費)
高齢化社会におけるせん妄合併下肢虚血症例のリキッドバイオプリン層別化法の継続開発	吉田 有里	外科(血管・呼吸・腫瘍)	2,200,000	補委 文部科学省(科研費)
覚醒下開頭手術におけるリアルタイム高周波律動マッピングの応用	真田 隆広	脳神経外科学講座	800,000	補委 文部科学省(科研費)

計80

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
花粉食物アレルギー症候群マウスモデルの作製と新規治療法の開発	大原 賢三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)
口腔扁平上皮癌の治療効果予測バイオマーカーと新規治療の開発研究	矢島 優己	歯科口腔外科学講座	2,200,000	補委	文部科学省(科研費)
小腸灌流保存による免疫応答の抑制	石井 大介	移植医工学治療開発講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
生体吸収性の小口径代用血管の開発	小山 恭平	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	3,600,000	補委	文部科学省(科研費)
世界の核被害の地域間比較研究:「いのち」、「こころ」、「くらし」の視点から	橋岡 禎征	精神医学講座	150,000	補委	文部科学省(科研費)
人工知能を利用した高齢者の口腔アセスメントのスクリーニング構築の基礎研究	竹川 政範	歯科口腔外科学講座	100,000	補委	文部科学省(科研費)
人工知能を利用した高齢者の口腔アセスメントのスクリーニング構築の基礎研究	小神 順也	歯科口腔外科	100,000	補委	文部科学省(科研費)
PET機構に基づくケージド化合物の生命機能解析・疾患治療研究への応用	長岡 泰司	眼科学講座	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	100,000	補委	文部科学省(科研費)
羊膜MSC由来HSPB6陽性エクソソームを用いた炎症性腸疾患への治療効果の検討	山本 幸司	消化器先端医学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	紙谷 寛之	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	10,000	補委	文部科学省(科研費)
細菌由来の分子による腸一肺連関メカニズムに基づいたARDS治療薬開発の基盤研究	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器内科学分野)	100,000	補委	文部科学省(科研費)
小児期発症日本人1型糖尿病患者の長期予後エビデンスの構築と治療への応用	鈴木 滋	小児科	30,000	補委	文部科学省(科研費)
ブレイン・マシン・インタフェース型ペットサイド下肢運動訓練システムの臨床応用	大田 哲生	リハビリテーション科	100,000	補委	文部科学省(科研費)
眼底循環に及ぼす加齢の影響と運動習慣に伴う予防効果の検討	長岡 泰司	眼科学講座	50,000	補委	文部科学省(科研費)
扁桃病巣疾患におけるパラインフルエンザ菌特異的単一リンパ球の同定と病態関与の検証	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100,000	補委	文部科学省(科研費)
マルチ核酸リキッドバイオプシーによる膵癌の超早期診断	水上 裕輔	内科学講座(消化器内科学分野)	100,000	補委	文部科学省(科研費)
マルチ核酸リキッドバイオプシーによる膵癌の超早期診断	高橋 賢治	内科(消化器)	100,000	補委	文部科学省(科研費)
男性型脱毛症治療のゲームチェンジャー;NPWTの毛周期・毛髪成長への影響	林 利彦	形成外科	300,000	補委	文部科学省(科研費)
先天性骨系統疾患の医療水準と患者QOLの向上を目的とした研究	蒔田 芳男	遺伝子診療カウンセリング室	500,000	補委	厚生労働省(科研費)

計100

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	伊藤 浩	整形外科科学講座	100,000	補	厚生労働省(科研費)
腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	400,000	補	厚生労働省(科研費)
腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病(CKD)対策の推進に資する研究	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,150,000	補	厚生労働省(科研費)
難治性腎障害に関する調査研究	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	500,000	補	厚生労働省(科研費)
MECP2重複症候群及びFOXG1症候群、CDKL5症候群の臨床調査研究	高橋 悟	小児科学講座	300,000	補	厚生労働省(科研費)
レット症候群の臨床調査研究	高橋 悟	小児科学講座	500,000	補	厚生労働省(科研費)
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	鈴木 滋	小児科	150,000	補	厚生労働省(科研費)
ライフスタイルに着目した慢性腎臓病(CKD)対策に資する研究	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,020,000	補	厚生労働省(科研費)
日本専門医機構における医師専門研修シーリングによる医師偏在対策の効果検証	古川 博之	所属なし	200,000	補	厚生労働省(科研費)
腸管上皮へのバリア機能増強メカニズムに基づく、新規炎症性腸疾患治療薬の開発	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器内科学分野)	9,856,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
免疫療法抵抗性遺伝子変異の共通分子を標的とした新規治療戦略の開発	吉田 遼平	内科学講座(呼吸器・脳神経内科学分野)	4,000,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
microRNA病態に基づいたレット症候群の治療薬開発	高橋 悟	小児科学講座	9,500,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	長屋 建	周産母子センター	250,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希遺伝的背景改善による発達障害に対する根治的治療法の基盤技術開発	蒔田 芳男	遺伝子診療カウンセリング室	4,000,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立	木下 学	脳神経外科学講座	700,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	東 寛	小児科学講座	800,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	木下 学	脳神経外科学講座	100,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキシマブの検証的医師主導治療の実施	中川 直樹	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	1,300,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)
神経細胞保護効果を有する新規パーキンソン病治療薬の開発	田崎 嘉一	薬剤部	3,500,000	補	日本医療研究開発機構(AMED)

計120

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nakagawa N	内科学講座(循環器・ 腎臓内科学分野)	Fatty liver index has potential as a predictor of hypertension in the Japanese general population	Hypertens Res. 2023 Apr;46(4):896-897	Letter
2	Nakagawa N, Sato N	内科学講座(循環器・ 腎臓内科学分野)	Potential impact of non- dipping pulse rate pattern and nocturnal high pulse rate variability on target organ damage in patients with cardiovascular risk	Hypertens Res. 2023 Apr;46(4):1054-1055	Letter
3	Osanai S	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科学分野)	Clinical Question: Can CPAP suppress cardiovascular events in resistant hypertension patients with obstructive sleep apnea?	Hypertens Res. 2023 Jun;46(6):1606-1608	Letter
4	Tokuno S, Miyamoto K, Usui R	内科学講座(循環器・ 腎臓内科学分野)	Non-Iatrogenic Localized- Reentrant Figure of Eight Atrial Tachycardias in the Superior Vena Cava	Case Rep Cardiol. 2023 May 24;2023:5074946	Case report
5	Sasaki T, Yoshida R, Nitanai K, et al.	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科学分野)	Detection of resistance mutations in patients with anaplastic lymphoma kinase- rearranged lung cancer through liquid biopsy	Transl Lung Cancer Res. 2023 Jul 31;12(7):1445-1453	Original Article

6	Nakagawa N, Kimura T, Sakate R, et al.	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	Demographics and treatment of patients with primary nephrotic syndrome in Japan using a national registry of clinical personal records	Sci Rep. 2023 Sep 7;13(1):14771	Original Article
7	Nakagawa N, Kimura T, Sakate R, et al.	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	Demographics and treatment of patients with primary membranoproliferative glomerulonephritis in Japan using a national registry of clinical personal records	Clin Exp Nephrol. 2023 Nov;27(11):928-935	Original Article
8	Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, et al.	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	Real-world trends in pre-dialysis blood pressure levels of patients undergoing dialysis in Japan using a web-based national database	J Clin Hypertens(Greenwich) . 2023 Dec;25(12):1163-1171	Original Article
9	Shigaki R, Yoshida R, Yagita A, et al.	内科学講座(呼吸器・脳神経内科学分野)	Case Report: Case series: association between blood concentration and side effects of sotorasib.	Front Oncol. 2023 Nov 16;13:1269991	Case report
10	Sakuma H, Ikeda M, Nakao S, et al.	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	Regional variation in pre-dialysis blood pressure and its association with cardiovascular mortality rates in Japanese patients undergoing dialysis	Hypertension Research volume 47, pages102-111 (2024)	Original Article
11	Promsuwan S, Sawamoto K, Liang Xu L, et al.	内分泌・代謝・膠原病内科	A natural Nrf2 activator glucoraphanin improves hepatic steatosis in high-fat diet-induced obese male mice associated with AMPK activation	Diabetol Int 2023 Aug 29;15(1):86-98.	Original Article

12	Goto T, Sato H, Fujiya M, et al.	内科学(消化器・血液)	The Effectiveness of the Combination of Arterial Infusion Chemotherapy and Radiotherapy for Biliary Tract Cancer: A Prospective Pilot Study	Cancers (Basel). 2023 May 5;15(9):2616.	Original Article
13	Sugiyama Y, Ueno N, Fujiya M, et al.	内科学(消化器・血液)	The safety of vedolizumab in a patient with Crohn's disease who developed anti-TNF-alpha agent associated latent tuberculosis infection reactivation: A case report.	Medicine (Baltimore). 2023 Jul 14;102(28):e34331.	Case report
14	Ueno N, Sugiyama Y, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	Concomitant pharmacologic medications influence the clinical outcomes of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis: A multicenter retrospective cohort study.	J Clin Apher. 2023 Aug;38(4):406-421.	Original Article
15	Hayashi H, Sawada K, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	The effect of heat-killed Lactobacillus brevis SBL88 on improving selective hepatic insulin resistance in non-alcoholic fatty liver disease mice without altering the gut microbiota.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Oct;38(10):1847-1854.	Original Article
16	Sato H, Kawabata H, Fujiya M.	内科学(消化器・血液)	The Lambda stenting technique: A new approach to address endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage-associated adverse events.	VideoGIE. 2023 Oct 28;9(2):107-114.	Case report
17	Moriichi K, Kashima S, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	Cardiac sarcoidosis in a patient with ulcerative colitis: a case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2024 Jan 5;103(1):e36207.	Case report

18	Kashima S, Moriichi K, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	A case of steroid-refractory chronic diarrhea in a patient undergoing chemotherapy with immune checkpoint inhibitor for lung cancer.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Feb;39(2):222-223.	Case report
19	Ota Y, Aso K, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	Noninvasive visualization of tumor blood vessels within hepatocellular carcinoma by application of superb microvascular imaging to contrast-enhanced ultrasonography	Diagnostics (Basel). 2024 Mar 23;14(7):678.	Case report
20	Kunogi T, Konishi H, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	Probiotic-derived ferrichrome induces DDIT3-mediated antitumor effects in esophageal cancer cells	Heliyon. 2024 Mar 15;10(6):e28070.	Original Article
21	Tanabe H, Makita Y, Okumura T et al.	内科学(消化器・血液)	Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability	Hum Genome Var. 2024 Mar 29;11(1):13.	Case report
22	Takahashi K, Isomoto H, Mizukami Y et al.	内科学(消化器・血液)	Current status of molecular diagnostic approaches using liquid biopsy.	J Gastroenterol. 2023 Sep;58(9):834-847.	Review
23	Sato H, Kamikokura Y, Fujiya M et al.	内科学(消化器・血液)	Small Insulinoma Followed-up as an Indolent Pancreatic Tumor: A Case Report.	Intern Med. 2024 Mar 4. (オンライン)	Case report

24	Lee AQ, Konishi H, Satake N et al.	内科学(消化器・血液)	Cmpd10357 to treat B-cell acute lymphoblastic leukemia	Exp Hematol. 2023 Mar-Apr;119-120:8- 13.e1.	Original Article
25	Yoshizawa M, Tamura Y, Yasuda A, et al.	精神科神経科	Video polysomnographic analysis of elevated EMG activity and rapid eye movements before abnormal behaviors in REM sleep behavior disorder.	Sleep Biol Rhythms. 2023 Jul 5;21(4):455- 460.	Original Article
26	Imanishi R, Nakau K, Shimada S, et al.	小児科	A novel HECW2 variant in an infant with congenital long QT syndrome.	Hum Genome Var 2023 Jun; 10(1): 17	Case report
27	Oka H, Nakau K, Shibagaki Y, et al.	小児科	Liver fibrosis markers represent central venous pressure in post-pubertal patients with congenital heart disease.	Cureus 2023 Jun; 15(6): e39845	Original Article
28	Haga S, Takeguchi R, Tanaka R, et al.	小児科	Clinical characteristics of muscle cramps in hereditary angiopathy with nephropathy, aneurysms, and muscle cramps syndrome associated with a novel COL4A1 pathogenic variant: A family case study.	Brain Dev 2023 Aug; 45(7): 390-394	Case report
29	Sato M, Nagamori T, Izumi K, et al.	小児科	Prolonged Epstein-Barr Virus DNA Detection in a Case of Infantile Infectious Mononucleosis.	Infect Dis Clin Pract 2023; 31(5): e1288	Case report

30	Shibagaki Y, Oka H, Nakau K, et al.	小児科	Intraventricular haemodynamic changes caused by increased left ventricular afterload in re-coarctation of aorta: a case report.	Eur Heart J Case Rep 2023 Oct; 7(11): ytad514	Case report
31	Oka H, Nakau K, Nakagawa S, et al.	小児科	Liver T1/T2 values with cardiac MRI during respiration.	Cardiol Young 2023 Oct; 33(10): 1859-1865	Original Article
32	Sato M, Nishibata Y, Masuda S, et al.	小児科	Demonstration of equivocal anti-glomerular basement membrane antibody positivity as a non-specific reaction through multiple immunologic assays in a case of pediatric asymptomatic hematuria.	Clin Biochem 2023 Oct; 120: 110650	Original Article
33	Oka H, Ito K, Nakagawa S, et al.	小児科	Evaluation of double-chambered right ventricle flow using 4D flow MRI - right ventricular helical flow may not disappear even after surgical intervention-.	European Heart Journal - Imaging Methods and Practice 2023 Dec; 1: qyad042	Original Article
34	Oka H, Nakau K, Shibagaki Y, et al.	小児科	Postoperative evaluation of left atrial stiffness in patients with congenital heart diseases.	Heart Vessels 2024 Feb;39(2):117-122	Original Article
35	Oka H, Taketazu M, Imanishi R, et al.	小児科	Unguarded Tricuspid Valve and Pulmonary Atresia With Intact Ventricular Septum Complicated With Right Coronary Artery Fistula and Advanced Atrioventricular Block in a Fetus: A Case Report.	Cureus 2024 Feb; 16(2): e54209	Case report

36	Kokumai T, Suzuki S, Nishikawa N, et al.	小児科	Early Diagnosis of Wolfram Syndrome by Ophthalmologic Screening in a Patient with Type 1B Diabetes Mellitus: A Case Report.	J Clin Res Pediatr Endocrinol 2024 Mar; 16(1) 102-105	Case report
37	Takamitsu T, Kohei K, Kei-ichi N,et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	NG2-positive pericytes regulate homeostatic maintenance of slow-type skeletal muscle with rapid myonuclear turnover	Stem Cell Research & Therapy,2023 Aug 17;14(1)	Original Article
38	Daisuke I,Yuka K,Seiya I,et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	Quantitative evaluation of pediatric umbilical loop stomas:2 decades of experience from a single institution	Pediatric Surgery International 2023 Sep 7;39(1):269	Original Article
39	Kamada K, Uchida D, Okuda H, et.al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	Venous Screening Activities at the Site of Hokkaido East Iburi Earthquake: Report from the Result of Venous Screening in Preventive Awareness Activities	Ann Vasc Dis. . 2023 Sep 25;16(3):163-168.	Original Article
40	Ushioda R, Shirasaka T, Yoongtong D, et al.	心臓外科	Coronary reoperation with a free internal mammary artery connected to the right coronary artery as an inflow site; a coronary-to-coronary bypass	J Surg Case Rep. 2023 Apr;2023(4):rjad136.	Case report
41	Ushioda R, Shirasaka T, Sakboon B, et al.	心臓外科	Evaluating Short-Term Postoperative Outcomes in Minimally Invasive Mitral Valve Surgery for Patients with Rheumatic Disease	The Heart Surgery Forum 2023 Apr;26(2):E178-E182.	Original Article

42	Okubo R, Kikuchi S, Otani N, et al.	心臓外科	Giant Superior Mesenteric Artery Aneurysm Treated by Endovascular Treatment in a Very Elderly Female	Vasc Specialist Int. 2023 May 15:39:10.	Case report
43	Okubo R, Otani N, Tsutsui M, et al.	心臓外科	Intra-Operative Occlusion of the Contralateral Common Iliac Artery by the Gore Excluder Iliac Branch System	EJVES Vasc Forum. 2023 Jun 14:60:19-22	Case report
44	Narita M, Tsutsui M, Ushioda R, et al.	心臓外科	Impella Implantation as a Bridge to Surgery for Repair of Aorto-Right Ventricular Fistula Following Prosthetic Valve Endocarditis: A Case Report	Heart Surg Forum. 2023 Jul;26(4):E311-E315	Case report
45	Narita M, Kunioka S, Kitani Y, et al.	心臓外科	Salvage percutaneous coronary intervention for failed graft itself three days after minimally invasive direct coronary artery bypass	J Surg Case Rep. 2023 Jul;2023(7):rjad420	Case report
46	Kunioka S, Watanabe T, Mochizuki H, et al.	心臓外科	Efficacy of catheter cleaning methods using intravenous indwelling catheter, 10% silver nitrate solution and a monofilament nylon thread for deeply progressed superficial driveline infections: case series	J Surg Case Rep. 2023 Aug;2023(8):rjad443	Case report
47	Shibagaki K, Kainuma S, Kamiya H, et al.	心臓外科	Minimally Invasive Repair of a Sinus Node Artery Aneurysm With a Fistula Into the Right Atrium	Annals of Thoracic Surgery Short Reports 2023 August;Vol. 2 Issue 1 p35-37	Case report

48	Kunioka S, Seguchi O, Hada T, et al.	心臓外科	Successful echocardiography-guided medical management of severe early post-implant right ventricular failure in a patient with left ventricular assist device support: a case report	J Cardiothorac Surg. 2023 Oct 4;18(1):269	Case report
49	Lee J, Tsutsui M, Mochizuki N, et al.	心臓外科	Interventional Bridging Therapy for Radical Cardiac Surgery in a Patient Seemed to be Inoperable Due to Very Poor Left Ventricular Function: A Case Report	Heart Surg Forum. 2023 Nov;26(6):E676-E679	Case report
50	Horimoto M, Tsutsui M, Mochizuki N, et al.	心臓外科	Staged revascularization and multi-modal mechanical circulatory supports in a patient with severe cardiogenic shock due to acute-on-chronic coronary syndrome	J Surg Case Rep. 2023 Nov 20;2023(11):rjad631	Case report
51	Shirakura K, Kunioka S, Miyatani K, et al.	心臓外科	Two-stage repair for DeBakey type II acute aortic dissection and distal aortic arch aneurysm in a nonagenarian patient	J Surg Case Rep. 2023 Dec;2023(12):rjad648	Case report
52	Okubo R, Otani N, Kamiya H	心臓外科	Renal rescue after inadvertent coverage during endovascular aneurysm repair	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2023 Dec;10(2):101411	Case report
53	Ushioda R, Hiroofuji A, Yoongtong D, et al.	心臓外科	Off-pump minimally invasive coronary artery bypass grafting in patients with left ventricular dysfunction: the lampang experience	Front Surg. 2024 Jan;11:1324343	Original Article

54	Kunioka S, Suzuki F, Nagata M, et al.	心臓外科	A Rare Case of Leukemoid Reaction During Mechanical Circulatory Support in a Patient With Severe Heart Failure: An Autopsy Study	Cureus. 2024 Feb;16(2):e54603	Case report
55	Shirakura K, Akasaka N, Mizushima D, et al.	心臓外科	Successful surgical correction of an incomplete atrioventricular septal defect in a 76-year-old female patient	J Surg Case Rep. 2024 Mar;2024(3):rjae187	Case report
56	Iwata H, Obara H, Nakajo T, et al.	外科(肝胆膵・移植)	Beneficial Effects of Combined Use of Extracorporeal Membrane Oxygenation and Hypothermic Machine Perfusion in Porcine Donors after Cardiac Death for Liver Transplantation.	J Clin Med. 2023 Sep 18;12(18):6031.	Original Article
57	Adachi Y, Takahashi H, Yamamoto T, et al.	外科(肝胆膵・移植)	Laparoscopic Extended Left Lateral Sectionectomy for Hepatocellular Carcinoma in a Patient with Right-Sided Ligamentum Teres	Diagnostics (Basel). 2023 Jul 29;13(15):2529.	Review
58	Iwata H, Matsuno N, Ishii D, et al.	外科(肝胆膵・移植)	Applicability of the histidine-tryptophan-ketoglutarate solution as a machine perfusion solution for marginal liver grafts.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 May;38(5):783-790.	Original Article
59	Otani M, Ishii D, Iwata H, et al.	外科(消化管)	Preservation Efficacy of a Quercetin and Sucrose Solution for Warm Ischemically Damaged Porcine Liver Grafts.	Transplant Proc. 2023 Nov;55(9):2212-2217.	Original Article

60	Shimazaki R, Hagiwara M, Tani C, et al.	外科(消化管)	Successful Multidisciplinary Treatment with  Laparoscopic Hepatectomy and Adjuvant Therapy for Metachronous Solitary Hepatic  Metastasis after Excision of a Primary Anorectal Malignant Melanoma	Curr Oncol. 2023 Dec 29;31(1):203-210	Case report
61	Horikawa D, Shimazaki R, Manabe K, et al.	外科(消化管)	Hyaline-vascular type unicentric Castleman disease with dysplastic follicular  dendritic cell proliferative lesions	J Surg Case Rep. 2023 Sep 27;2023(9):rjad536	Case report
62	Shonaka T, Tani C, Takeda T, et al.	外科(消化管)	The experience of 100 cases of 8K/two-dimensional  laparoscopic colorectal surgery - The evaluation of 8K/two-dimensional  laparoscopy and how to use it.	J Minim Access Surg. 2023 Jan-Mar;19(1):74-79.	Case report
63	Tanino H	整形外科	CORR Insights: The Supercapsular Percutaneously Assisted Total Hip Approach Does Not Provide Any Clinical Advantage Over the Conventional Posterior Approach for THA in a Randomized Clinical Trial	Clinical Orthopaedics and Related Research 2023,481(6):1126-28	Original Article
64	Tanino H, Mitsutake R, Takagai K, et al	整形外科	Does Commercially Available Augmented Reality-based Portable Hip Navigation System Improve Cup Positioning During THA Compared with Conventional Technique? A Prospective, Randomized, Controlled Study	Clinical Orthopaedics and Related Research 2024,482(3):458-467	Original Article
65	Mizutani K, Kobayashi T, Senoo I, et al	整形外科	Importance of modifiable non-radiographic functional parameters for adult spinal deformity	Scientific Reports 2024,14(1):6	Original Article

66	Tanino H, Mitsutake R, Ito H	整形外科	Measurement accuracy of the acetabular cup position using an inertial portable hip navigation system with patients in the lateral decubitus position	Sci. Rep 2024,14(1):1158	Original Article
67	Ishida- Yamamoto A, Yamanishi H, Igawa S, et al.	皮膚科	Secretion Bias of Lamellar Granules Revealed by Three-Dimensional Electron Microscopy	J Invest Dermatol. 2023 Jul;143(7):1310-1312.e3.	Original Article
68	Honma M, Kanai Y, Murotani K,et al.	皮膚科	Effectiveness of brodalumab in improving itching and skin pain in Japanese patients with psoriasis: The ProLOGUE study	J Dermatol. 2023 Apr;50(4):453-461.	Original Article
69	Kishibe M, Koike K, Kanno K, et al.	皮膚科	Autoimmunity-related neutrophilic dermatosis after coronavirus disease 2019 vaccination: A case report and literature review	J Dermatol. 2023 Jun;50(6):820-823.	Original Article
70	Iinuma S, Kobayashi T, Ishida- Yamamoto A.	皮膚科	Pityriasis lichenoides et varioliformis acuta-like eruption after brentuximab vedotin treatment for peripheral T-cell lymphoma	Eur J Dermatol. 2023 Jun 1;33(3):316-317.	Letter
71	Iinuma S, Kobayashi T, Ishida- Yamamoto A	皮膚科	Pruritic Palpable Purpura on the Lower Legs: A Quiz	Acta Derm Venereol. 2023 Sep 14;103:adv18366.	Others

72	Nozaki H, Honma M, Tanino H, et al.	皮膚科	Characteristics of osteonecrosis of the femoral head complicated by psoriasis	J Dermatol. 2024 Feb;51(2):e42-e43	Letter
73	Kitta T, Darekar A, Malhotra B, et al.	腎泌尿器外科	Fesoterodine treatment of pediatric patients with neurogenic detrusor overactivity: A 24-week, randomized, open-label, phase 3 study.	J Pediatr Urol. 2023 Apr;19(2):175.e1-175.e10	Original Article
74	Kitta T, Mitsui T, Izumi N.	腎泌尿器外科	Diagnosis and Treatment of Japanese Children with Neurogenic Bladder: Analysis of Data from a National Health Insurance Database.	J Clin Med. 2023 Apr 28;12(9):3191	Original Article
75	Kitta T, Kanno-Kakibuchi Y, Chiba H, et al.	腎泌尿器外科	Episodes of Febrile Urinary Tract Infections Occur More Often in the Winter in Patients with Spina Bifida.	Urol Res Pract. 2023 May;49(3):211-215	Original Article
76	Kitta T, Kobayashi S, Togo M, et al.	腎泌尿器外科	Detrusor-Overactivity-Related Voiding in Women Mimics Bladder Outflow Obstruction and Conceals Underactivity.	Urol Res Pract. 2023 Jul;49(4):266-270	Original Article
77	Wada N, Abe N, Miyauchi K, et al.	腎泌尿器外科	High-Fat and High-Sucrose Diet Leads to Skeletal Muscle Loss and Bladder Dysfunction in Rat.	Res Rep Urol. 2023 Jul 3;15:305-313	Original Article

78	Kobayashi S, Tokita S, Moniwa K, et al.	腎泌尿器外科	Proteogenomic identification of an immunogenic antigen derived from human endogenous retrovirus in renal cell carcinoma.	JCI Insight. 2023 Aug 22;8(16):e167712	Original Article
79	Wada N, Takagi H, Tekeuchi K, et al.	腎泌尿器外科	Internet research of utilization of social media in patients with urological disease and their families in Japan.	Int J Urol. 2023 Dec;30(12):1141-1145	Original Article
80	Takagi H, Wada N, Morishita S, et al.	腎泌尿器外科	Postoperative small intestinal obstruction caused by barbed suture after robot-assisted laparoscopic sacrocolpopexy.	IJU Case Rep. 2024 Mar;7(2):105-109	Case report
81	Wada N, Hatakeyama T, Takagi H, et al.	腎泌尿器外科	Ischemic priapism caused by self intracavernous injection of tadalafil.	IJU Case Rep. 2024 Mar;7(2):169-172	Case report
82	Wada N, Mizunaga M, Abe N, et al.	腎泌尿器外科	Comparison of mirabegron and vibegron for clinical efficacy and safety in female patients with overactive bladder: a multicenter prospective randomized crossover trial.	World J Urol. 2024 Mar 2;42(1):113	Original Article
83	Utsunomiya T, Ishibazawa A, Yoshioka T, et al.	眼科	Assessing Effects of Mechanical Stimulation of Fluid Shear Stress on Inducing Matrix Metalloproteinase-9 in Cultured Corneal Epithelial Cells	Experimental Eye Research. 2023 Jul 18;234:109571.	Original Article

84	Konno A, Ishibazawa A, De Pretto L, et al.	眼科	Relationship between nonperfusion area from widefield optical coherence tomography angiography and macular vascular parameters in diabetic retinopathy	International ophthalmology.2023 Dec;43(12):4803-4814.	Original Article
85	Nishikawa N, Sato M.	眼科	Acute acquired comitant esotropia: Current understanding of its etiological classification and treatment strategies	Taiwan Journal of Ophthalmology January. 11, 2024	Review
86	Takahara,M., Sabusawa,T., Ohara,K., et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Treatment outcomes of sialendoscopy for submandibular gland sialolithiasis	Auris Nasus Larynx. 2023 Oct;50(5):783-789.	Original Article
87	Ohara K, Takahara M, Kumai T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Treatment outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal carcinoma: a single-center safety and efficacy study	Braz J Otorhinolaryngol. 2023 May-Jun;89(3):440-446.	Original Article
88	Kumai,T., Inoue,T., Sakaue,S., et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	An Otogenic Variant of Lemierre's Syndrome Caused by Trueperella bernardiae: A Case Report and Literature Review	Cureus. 2023 Aug 5;15(8):e42977.	Case report
89	Yamaki,H., Kono,M., Wakisaka,R., et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Brachyury-targeted immunotherapy combined with gemcitabine against head and neck cancer.	Cancer Immunol Immunother. 2023 Aug;72(8):2799-2812.	Original Article

90	Hayashi,R., Srisomboon,Y , Iijima,K., et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Cholinergic Sensing of Allergen Exposure by Airway Epithelium Promotes Type 2 Immunity in the Lungs	J Allergy Clin Immunol. 2024 Mar;153(3):793- 808.e2.	Original Article
91	Hayashi S, Kumai T, Kishibe K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Internal carotid artery dissection caused by elongated styloid process	Auris Nasus Larynx. 2023 Dec;50(6):968- 972.	Case report
92	Hayashi S, Kumai T, Michizuka T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Thyroid metastasis from cervical carcinoma	Braz J Otorhinolaryngol. 2023 Jul- Aug;89(4):101268.	Original Article
93	Komatsuda H, Kono M, Wakisaka R, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Harnessing Immunity to Treat Advanced Thyroid Cancer.	Vaccines (Basel). 2023 Dec 30;12(1):45.	Review
94	Sato R, Yamaki H, Komatsuda H, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Exploring Immunological Effects and Novel Immune Adjuvants in Immunotherapy for Salivary Gland Cancers.	Cancers (Basel). 2024 Mar 19;16(6):1205.	Review
95	Hayashi S, Kumai T, Kishibe K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Internal carotid artery dissection caused by elongated styloid process.	Auris Nasus Larynx. 2023 Dec;50(6):968- 972.	Case report

96	Kono M, Wakisaka R, Komatsuda H, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Immunotherapy targeting tumor-associated antigen in a mouse model of head and neck cancer.	Head Neck. 2024 Aug;46(8):2056-2067.	Original Article
97	Ohara K, Katada A, Kumai T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Central-part laryngectomy after laryngotracheal separation to manage pharyngocutaneous fistula: A case report and retrospective analysis of 12 cases.	Auris Nasus Larynx. 2023 Aug;50(4):628-631.	Case report
98	Inoue T, Kumai T, Ohara K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Cerebral Infarction as a Rare Adverse Event of Immune Checkpoint Inhibitors in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma: A Case Series.	Cureus. 2023 Oct 20;15(10):e47406.	Case report
99	Sato R, Yuasa R, Kumai T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Efficacy of Cetuximab Combined with Paclitaxel in Patients with Recurrent Salivary Gland Carcinoma: A Retrospective Observational Study.	ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec. 2024;86(1):41-49.	Original Article
100	Nakanishi K, Saijo Y, Yoshioka E, et al.	産婦人科	Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment and Children's Study	BMJ Open. 2023 Mar 15;13(3):e069281. doi: 10.1136/bmjopen-2022-069281.	Original Article
101	Ishikawa Y, Nakanishi K, Tsumura A, et al.	産婦人科	Early abdominal wall ectopic pregnancy treated with laparoscopic surgery: A case report and literature review.	The journal of obstetrics and gynaecology research. 2023 Jul 9.	Case report

102	Ishikawa Y, Nakanishi K, Masuda A, et al.	産婦人科	Telemedicine for Pregnant Women on a Japanese Remote Island: A Two-year Report	JMA J. October 16, 2023; Volume 6, Issue 4	Original Article
103	Kenta N, Michihiro N, Atsutaka O	放射線科	Effects of apitherapy against salivary gland disorder after radioactive iodine therapy for differentiated thyroid cancer	Annals of Nuclear Medicine, 2023 May (オンライン)	Original Article
104	Yuki A, Michihiro N, Kaori N, et al.	放射線科	Comparison of pain-relieving effects by number of irradiations, through propensity score matching and the international consensus endpoint	Reports of Practical Oncology and Radiotherapy, 2023 Aug; 28(4): 506-513	Others
105	Kenta N, Michihiro N, Atsutaka O	放射線科	Benefits of basil tea for patients with differentiated thyroid cancer during radioiodine therapy: A randomized controlled trial	Heliyon, 2023 October (オンライン)	Original Article
106	Iwasaki H, Takahoko K, Matsui T, et al.	麻酔科蘇生科	The impact of electrosurgical devices on electromyography- based neuromuscular monitoring during abdominal laparotomy: a case series.	J Clin Monit Comput. 2023 Aug;37(4):1111- 1114	Case report
107	Mori C, Iwasaki H, Sato I, et al.	麻酔科蘇生科	Impact of intraoperative fluid restriction on renal outcomes in patients undergoing robotic- assisted laparoscopic prostatectomy.	J Robot Surg. 2023 Oct;17(5):1989-1993	Original Article

108	Tabata H, Takahoko K, Luthe SK, et al.	麻醉科蘇生科	Laryngospasm Treated With Intramuscular Rocuronium in a Pediatric Patient Without Intravenous Access: A Case Report	Cureus. 16(3): e56620. March 21, 2024	Case report
109	Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, et al.	脳神経外科	Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast- enhanced T1-weighted intensity image.	Neurooncol Adv. 2024 Feb 1;6(1):vdae016.	Original Article
110	Yamamoto S, Okita Y, et al.	脳神経外科	Qualitative MR features to identify non-enhancing tumors within glioblastoma's T2- FLAIR hyperintense lesions.	J Neurooncol. 2023 Nov;165(2):251-259.	Original Article
111	Mitsui N , Kinoshita M , Nakazawa J , et al.	脳神経外科	Filter-type Protection Device Retrieval Interfered by Deployed Stent during Subclavian Artery Stenosis Treatment: Case Report and Complication Avoidance Recommendation.	NMC Case Rep J. 2023 Oct 14;10:279- 283.	Original Article
112	Mitsui N , Kinoshita M , Sawada J , et al.	脳神経外科	Stroke risk related to intentional discontinuation of antithrombotic therapy for invasive procedures.	Neurosurg Focus. 2023 Oct;55(4):E7.	Original Article
113	Sato H , Hiroshima S , Anei R , et al.	脳神経外科	Primary neurolymphomatosis of the trigeminal nerve.	Br J Neurosurg. 2023 Aug;37(4):697-700.	Original Article

114	Sato H , Mitsui N , Fujikawa S , et al.	脳神経外科	Critical evaluation of the modified Rankin Scale for assessment of the efficacy of mechanical thrombectomy: A retrospective comparison between the modified Rankin Scale and functional independence measure.	Interv Neuroradiol. 2023 Jul 10;159101992311856 35.	Original Article
115	Sato H , Saito M , Yuzawa S , et al.	脳神経外科	Early recurrence of Rosai-Doefman disease after total removal resection: a case report.	Br J Neurosurg. 2023 Jun;37(3):413-415.	Case report
116	Takano C , Takano T , Masumura M , et al.	脳神経外科	Involvement of Degenerating 21.5 kDa Isoform of Myelin Basic Protein in the Pathogenesis of the Relapse in Murine Relapsing-Remitting Experimental Autoimmune Encephalomyelitis and MS Autopsied Brain.	Int J Mol Sci. 2023 May 2;24(9):8160.	Original Article
117	Shimizu T, Toyota S , Takahara M , et al.	脳神経外科	Long-term Patency of Retrograde Bypass Using a Distal Stump of the Parietal Superficial Temporal Artery for Moyamoya Disease.	Neurologia medico-chirurgica. 2023 Dec;63(12):542-547	Original Article
118	Manase A ,Shimazaki K,Sakurai A ,Takekawa M.	歯科口腔外科学講座	A case of necrotizing fasciitis in the temporal region due to odontogenic infection in a very elderly patient	Oral Science in Japan 2023. 2024 Mar; 9-11	Case report
119	Kawaguchi S, Moukette B, Hayasaka T, et al.	救急医学講座	Noncoding RNAs as Key Regulators for Cardiac Development and Cardiovascular Diseases	J Cardiovasc Dev Dis. 2023 Apr 12;10(4):166	Original Article

120	Kawaguchi S, Moukette B, Sepúlveda MN, et al.	救急医学講座	SPRR1A is a key downstream effector of MiR-150 during both maladaptive cardiac remodeling in mice and human cardiac fibroblast activation	Cell Death Dis. 2023 Jul 19;14(7):446	Original Article
121	Kawaguchi S, Kuroshima T, Namba R, et al.	救急医学講座	A case of repeated Kounis syndrome after anaphylactic shock: A note for disease management	Acute Med Surg. 2024 Feb 5;11(1):e908.	Case report
122	Kuroshima T, Kawaguchi S, and Okada M*	集中治療部	Tatsuki Kuroshima, Satoshi Kawaguchi, and Motoi Okada*	Int J Mol Sci. 2024 Apr 26;25(9):4710.	Review
123	Igarashi S, Nozu T, Ishioh M et al.	総合診療部	Ghrelin prevents lethality in a rat endotoxemic model through central effects on the vagal pathway and adenosine A2B signaling : Brain ghrelin and anti-septic action.	J Physiol Biochem. 2023;79(3):625-634.	Original Article
124	Kumei S, Ishioh M, Nozu T et al.	総合診療部	Prostaglandin I(2) suppresses the development of gut-brain axis disorder in irritable bowel syndrome in rats.	Biochim Biophys Acta Gen Subj. 2023;1867(5):130344.	Original Article
125	Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M et al.	総合診療部	Imeglimin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in irritable bowel syndrome rat model.	J Pharmacol Sci. 2023;153(1):26-30.	Original Article

126	Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M et al.	総合診療部	Phlorizin attenuates postoperative gastric ileus in rats.	Neurogastroenterol Motil. 2023;35(11):e14659.	Original Article
127	Nozu T, Ohhira M, Ishioh M et al.	総合診療部	Adult-onset Periodic Fever, Aphthous Stomatitis, Pharyngitis and Cervical Adenitis Syndrome Responsive to Colchicine.	Intern Med. 2023;62(23):3555-3558.	Case report
128	Ishioh M, Nozu T, Okumura T.	総合診療部	Brain Neuropeptides, Neuroinflammation, and Irritable Bowel Syndrome.	Digestion. 2024;105(1):34-39.	Review
129	Sugiyama Y, Ueno N, Okumura T et al.	総合診療部	Severe immune checkpoint inhibitor-associated gastritis: A case series and literature review.	Endosc Int Open. 2022 Jul 15;10(7):E982-E989.	Case report
130	Ueno N, Fujiya M et al.	総合診療部	Concomitant pharmacologic medications influence the clinical outcomes of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis: A multicenter retrospective cohort study.	J Clin Apher. 2023 Aug;38(4):406-421.	Original Article
131	Sugiyama Y, Ueno N et al.	総合診療部	The safety of vedolizumab in a patient with Crohn's disease who developed anti-TNF-alpha agent associated latent tuberculosis infection reactivation: A case report.	Medicine (Baltimore). 2023 Jul 14;102(28):e34331.	Case report

132	Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	The clinical efficacy and safety of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with Crohn's disease: A multicenter retrospective pilot study.	Ther Apher Dial. 2024 Jun;28(3):442-452.	Original Article
133	Moriichi K, Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	Cardiac sarcoidosis in a patient with ulcerative colitis: A case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2024 Jan 5;103(1):e36207.	Case report
134	Kunogi T, Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	Probiotic-derived ferrichrome induces DDIT3-mediated antitumor effects in esophageal cancer cells.	Heliyon. 2024 Mar 15;10(6):e28070.	Original Article
135	Sugiyama Y, Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	Comparison of diagnostic accuracy between linked color imaging and autofluorescence imaging in patients with ulcerative colitis: A prospective observational study.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Apr 27. doi: 10.1111/jgh.16586.	Original Article
136	Ando K, Fujiya M, Ueno N et al.	総合診療部	Effectiveness and Persistency of Ustekinumab Treatment for Ulcerative Colitis: A Phoenix retrospective Cohort Study.	Crohns Colitis 360. 2024 Apr 13;6(2):otae024.	Original Article
137	Takahashi K, Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	Risk Factors for Post-Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection Bleeding and Efficacy of Carbazochrome Sodium Sulfonate: A Multicenter Retrospective Cohort Study.	Digestion. 2024 May 22:1-10.	Original Article

138	Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, et al	腫瘍センター	Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability.	Hum Genome Var. 2024 Mar 29;11(1):13.	Case report
139	Yoshida N, Nakatsubo M, Yoshino R, et al.	乳腺疾患センター	Concurrent Granulomatous Mastitis and Ductal Carcinoma In Situ	Cureus 2023 May 1;15(5):e38377	Case report
140	Yoshino R, Yoshida N, Yasuda S et al.	乳腺疾患センター	A Case of Pneumothorax Ex Vacuo Associated with COVID-19	Medicina (Kaunas). 2023 May 1;15(5):e38377	Case report
141	Yoshino R,Yoshida N,Ito A, et al.	乳腺疾患センター	Surgical resection of a large invasive mucinous adenocarcinoma: A case report	Clin Case Rep . 2023 Jul 17;11(7):e7707.	Case report
142	Yoshino R,Yoshida N,Yasuda S, et al.	乳腺疾患センター	Granulomatous Mastitis Occurring during Pregnancy: A Case Report	Clin Case Rep . 2023 Jul 17;11(7):e7707.	Case report
143	Yoshino R,Yoshida N,Yasuda S, et al.	乳腺疾患センター	Synchronous multiple lung cancers with hilar lymph node metastasis of small carcinoma	World J Clin Cases 2023 Sep 6;11(25):5919-5925	Case report

144	Yoshino R, Yoshida N, Ito A, et al.	乳腺疾患センター	Radiation-Associated Breast Angiosarcoma	Cureus .2023 Oct 8;15(10):e46673	Case report
145	Ito A, Nakatsubo M, Yoshino R, et al.	乳腺疾患センター	Two Cases of Breast Cancer With Gastric Metastasis	Cureus .2023 Aug 13;15(8):e43434	Case report
146	Yoshino R, Yoshida N, Ito A, et al.	乳腺疾患センター	Subareolar Breast Abscess in a Male: A Case Report	Cureus 2023 Jul 28;15(7):e42623.	Case report
147	Yoshino R, Yoshida N, Ito A, et al.	乳腺疾患センター	Solitary fibrous tumor resembling pulmonary fractionation disease: A case report	Medicine (Baltimore) 2023 Jul 7;102(27):e34290	Case report
148	Yoshino R, Yoshida N, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Surgical Treatment of Secondary Pneumothorax-Complicated Interstitial Lung Disease	Cureus 2023 Oct 10;15(10):e46816	Case report
149	Ito A, Nakatsubo M, Yoshino R, et al.	乳腺疾患センター	[Thymic Neuroendocrine Tumor Associated with Multiple Endocrine Neoplasia Type 1]	Kyobu Geka 2023 Apr;76(4):324-327.	Case report

150	Yoshino R, Nakatsubo M, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Primary Chondrosarcoma of the Right Fourth Rib Resected at the Marginal Margin: A Case Report	Cureus 2023 Dec 28;15(12):e51251	Case report
151	Yoshino R, Yoshida N, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	The Add-On Effect of Fluorouracil, Epirubicin, and Cyclophosphamide Regimens for Neoadjuvant Chemotherapy in Human Epidermal Receptor 2 (HER2)-Positive Breast Cancer: A Single-Center Retrospective Study	Cureus 2023 Nov 4;15(11):e48255	Original Article
152	Yoshino R, Nakatsubo M, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Surgical Resection of a Pneumothorax in an Adult Patient With a History of Wilson-Mikity Syndrome Diagnosed in Childhood	Cureus 2024 Feb 21;16(2):e54641	Case report
153	Yoshino R, Nakatsubo M, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Ectopic epipericardial fat necrosis: a case report	Surg Case Rep . 2024 Mar 8;10(1):54	Case report
154	Yoshino R, Nakatsubo M, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Breast cancer with biomarker reversal during the course of treatment: a case report	J Surg Case Rep 2024 Jun 28;2024(6):rjae432.	Case report
155	Yoshino R, Nakatsubo M, Ujiie N, et al.	乳腺疾患センター	Ectopic epipericardial fat necrosis: a case report	Surg Case Rep 2024 Mar 8;10(1):54.	Case report

156	Uno Y, Tanaka H, Miyakawa K, et al.	病理部・病理診断科	Subcellular localization of hTERT in breast cancer: insights into its tumorigenesis and drug resistance mechanisms in HER2-immunopositive breast cancer	Human Pathology. 2023 Apr;134:74-84	Original Article
157	Yuzawa S, Michizuka T, Kakisaka R, et al.	病理部・病理診断科	Low-grade papillary Schneiderian carcinoma with TP53 mutation: a case report and review of the literature	Diagnostic Pathol. 2023; 18:44	Case report
158	Iwasaki H, Takahoko K, Matsui T, et al.	麻酔科蘇生科	The impact of electrosurgical devices on electromyography-based neuromuscular monitoring during abdominal laparotomy: a case series.	J Clin Monit Comput. 2023 ; 37 (1111 - 1114)	Case report
159	Tani Y, Hayashi T, Iwata T	経営企画部	Effectiveness of Leakage Prevention System in Communicating Important Diagnostic Information	Stud Health Technol Inform. 2024 Jan 25;310:1400-1401 (オ ンライン)	Others
160	Manabe T, Iwayama K, Chuma M, et al.	薬剤部	The Effect of Concomitant Usage of Analgesics on Immune Checkpoint Inhibitor-related Interstitial Lung Disease	In vivo, 2023 May- Jun, 37(3):1260- 1265.	Original Article

計160件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記するこ

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Umekage Y, Naraoka T, Shigaki R, et al.	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科学分野)	侵襲性肺炎球菌感染症を合併 したCOVID-19の2例	日本呼吸器学会誌. 2023 May;12(3):125- 129	Case report
2	Uemura T, Sawada J, Oohashi I, et al.	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科学分野)	急性心筋梗塞を契機に呼吸不 全が増悪したLambert-Eaton 筋無力症候群の1例	臨床神経学. 2023 June;63(6):363-368	Case report
3	Shiwaku Y, Sugiki R, Kubo Y, et al.	内科学講座(循環器・ 腎臓内科学分野)	当院における皮下植込み型除 細動器の初期成績	心臓. 2023 Nov;55(11):1099- 1109	Original Article
4	Sasaki T, Kida T, Minami Y, et al.	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科)	肺癌に対する光線力学療法の 現状と課題	光アライアンス. 2023 年6月号; Vol.34 No.6	Others
5	Yasuhiro Umekage , Akari Yagita , Hiraku Yanada , et al.	内科学講座(呼吸器・ 脳神経内科)	血球貪食症候群を伴った播種 性BCG症の1例	日本呼吸器学会誌. (2024.03) ; 13巻2号 : P78-82	Case report

6	Sato M, Ueno N, Fujiya M, et al.	内科(消化器・血液)	北海道道北・道東圏内における炎症性腸疾患患者の医療連携構築に向けた課題	日本消化器病学会雑誌 2023 Jul;120:7 590-601	
7	Fujiya M, Satani A.	内科(消化器・血液)	治療法のアップデートのために 専門家による私の治療 虚血性大腸炎	日本医事新報 2023 Jul. 5177 49-50	
8	Sukuta K, Aso K, Otake S, et al.	内科(消化器・血液)	若年者に発症した巨大肝エキノコックス症の一例	Rad Fan 2023 Jun. 21; 8 14-17	
9	Aso K, Okada M, Ota Y, et al.	内科(消化器・血液)	肝腫瘍診断における造影3DSMIの臨床応用	Rad Fan 2023 Jun. 21; 8 46-48	
10	Otake S, Aso K, Ota Y, et al.	内科(消化器・血液)	FNH-like noduleの1例	Rad Fan 2023 Nov. 21; 14 23-26	
11	Hashioka S	精神医学講座	【電気けいれん療法(ECT)と経頭蓋直流電気刺激(tDCS)の最先端】 げっ歯類モデルを用いた電気けいれん療法とグリアの研究	精神科. 2023 Oct;43(4):401-405	Original Article

12	Motoki K, Kawamura R, Fuchida T, et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	虫垂腫瘍を疑った盲腸子宮内膜症の1例	北海道外科雑誌 2023 12 Vol.68 No.2 P22-26	Case report
13	Kikuchi S, Uchida D, Tamaru Y, et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	レオカーナ®の台頭と活用法	血管外科 2023 Vol.42 No.1 P21-28	Review
14	Kumata Y, Ishii D, Ishii S, et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	低位鎖肛術後糞便性腸閉塞により腹部コンパートメント症候群を呈した1例	日本小児外科学会雑誌 2023,12 第59巻 第7号 P1088-1094	Case report
15	Uchida D, Azuma N	外科(血管・呼吸・腫瘍)	破裂性腹部大動脈瘤におけるICTを利用した医療連携の実践	手術 2023,12第77巻 第13号 P1835-P1839	Review
16	Ishii D, Kumata Y, Ishii S, et al	外科(血管・呼吸・腫瘍)	ラップ形成(Thal法)	小児外科 2024.1 Vol.56 No.1 P54-59	Review
17	Ishii S, Ishii D, Motoki K, et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍)	先天性結腸閉鎖症に対して臍部人工肛門造設術を用いた多期的手術で良好な経過をたどった1例	日本小児外科学会雑誌 2024.2 第60巻 第1号 P73-77	Case report

18	Shimizu K, Hirofuji A, Mochizuki N, et al.	心臓外科	心室細動を契機に診断された右冠動脈起始異常症に対して冠動脈バイパス術及び右冠動脈根部離断術を施行した1例	北海道外科雑誌 2023 Jun;68巻1 号:42-45p.	Case report
19	Fukuta H, Hirofuji A, Mochizuki N, et al.	心臓外科	心筋梗塞後のoozing型心破裂、乳頭筋断裂による僧帽弁閉鎖不全と左室瘤に対して二期的に手術を施行した一例	北海道外科雑誌 2023 Dec;Vol.68 No.2:27-31p.	Case report
20	Shimada S,Takahata H,Makino K,et al.	外科(肝胆膵・移植)	【肝移植の臨床現場における機械灌流法の位置づけと現状】世界の趨勢	北海道外科雑誌.68 巻2号 Page89-95	Review
21	Matsuno N,Obara H,Ishii D,et al.	外科(肝胆膵・移植)	「臓器移植におけるMachine Perfusionの現状と課題」肝臓機械灌流保存の現状と我が国への導入へ向けて	移植.58巻1号 Page19-27	Review
22	Abe S, Maeda Y, Sasaki Y	整形外科	膝蓋大腿関節における自家培養軟骨移植(JACC®) 移植術後 3~5 年の MRI の経時的変化	JOSKAS誌 2023,48(1):62-3	Original Article
23	Abe S, Sasaki Y, Kayaba K, et al	整形外科	外反型膝変形に対するPS型TKAのアプローチの違いによるコンポーネントギャップ	日本人工関節学会誌 2023,52:257-8	Original Article

24	Irie T, Miyoshi N, Okuhara K, et al	整形外科	3Dプレートを用いた母指CM 関節固定術の治療成績	日本手外科学会雑誌 2023, 39(26):839- 844	Original Article
25	Abe S	整形外科	X線診断Q&A(図説)	整形外科2024, 75(2):147-8	Review
26	Ishida- Yamamoto A	皮膚科	【教えて先輩! 皮膚科診療の困りごと】 ベーシックステージ 皮疹のみかた 皮 疹から想像する病理像 病理組織所 見の特徴を踏まえた生検のコツ	皮膚科の臨床 (2023.05) 65巻6号 Page726-729	Review
27	Ishida- Yamamoto A	皮膚科	掌蹠角化症の分類と診断	皮膚科(2023.08)4巻 2号 Page247-251	Review
28	Ishida- Yamamoto A	皮膚科	デジタルに強くなれ! 皮膚科 学教育系YouTuberになってみ た	日本臨床皮膚科医会 雑誌 (2023.11) 40巻 6号 Page719-721	Others
29	Honma M, Nozaki H	皮膚科	乾癬治療のターゲット-IL-17お よび関連サイトカインを中心と する乾癬病態	皮膚科(2023.06)3巻 6号 Page735-742	Review

30	Kishibe M, Ishida- Yamamoto A, Gouchi K , et al.	皮膚科	【汗と関連する皮膚病～診断の技量を磨く～】汗アレルギー性コリン性蕁麻疹を合併した特発性後天性全身性無汗症(AIGA)の治療経験	皮膚病診療 (2023.08) 45巻8号 Page718-722	Original Article
31	Igawa S	皮膚科	コルネオデスモソームとデスモソーム	皮膚科(2023.08) 4 巻2号 Page252-258	Review
32	Igawa S	皮膚科	皮膚バリアって何? どう測るの?	美肌をつくるサイエンスBella Pelle (2023) 8巻3号 Page208-209	Others
33	Matsuo R, Igawa S, Ishida- Yamamoto A	皮膚科	【埋もれた症例に光をあてる～潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍II～】(Part3.)誘因不明,その他(case 12) 凍傷	Visual Dermatology (2023.06) 22巻7号 Page672-674	Others
34	Kobayashi Y,Kanno K, Matumoto K,et al.	皮膚科	【薬疹】COVID-19に対するワクチン(BNT162b2)接種後に生じたStevens-Johnson症候群の1例	皮膚科の臨床 (2023.09) 65巻10号 Page1463-1466	Case report
35	Takagi H, Hori J, Morishita S, et al.	腎泌尿器外科	両側異時発生精巣腫瘍の3例	泌尿器科紀要 2024 Mar; 70(3): 77-80	Case report

36	Nishikawa N, Kinouchi R, Kawaguchi Y, et al.	眼科	術前にprism adaptation testを施行した部分調節性内斜視の後ろ向き研究:手術成績と予後因子の検討	日本眼科学会雑誌. 127 (7): 680-688	Original Article
37	Nishikawa N, Makita Y, Aoki T, et al.	眼科	AFG3L2遺伝子の病的バリエーションによる両眼視神経萎縮(OPA12)の1例	臨床眼科(0370-5579)78巻3号 Page337-342	Original Article
38	Otsubo M 1,2, Yoshioka T 1, Kinouchi R 1, et al.	眼科	線維柱帯切開術眼内法における切開範囲の術後眼圧への影響	臨床眼科77巻10号 Page1314-1319	Original Article
39	Hayashi S., Kumai T., Kishibe K., et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	高悪性度耳下腺癌を呈した脱分化型上皮筋上皮癌例	耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)117巻3号 Page233-240	Original Article
40	Kato Y	産婦人科	女性医学『骨盤内炎症性疾患(PID)』	産科と婦人科 増刊号 Vol.90 2023	Review
41	Kato Y	産婦人科	『クラウド型教育支援サービスによる均一化された漢方教育の拡充』	2022年度 日本漢方医学教育振興財団活動業績集 2023.7 発行	Original Article

42	Nakanishi K, Waguri M	産婦人科	『糖尿病を合併した日本人妊婦における先天異常胎妊娠第1三半期のHbA1c値の検討』	糖尿病と妊娠 23巻2号2023年	Others
43	Takahashi Y, Takahoko K	麻酔科	Mitraclip® 術中に心腔内に空気が混入した1症例	臨床麻酔, 47(9): 1076-77	Case report
44	Sato H, Kimura T, Sogabata K, et al.	脳神経外科	脳神経外科診療とIT 医療僻地を抱える北海道でのICTの活用	脳神経外科ジャーナル. 2023 July; 2 (8): 534-537	Original Article
45	Ijiri E, Wachi S, Tampo A, et al.	集中治療部	重症熱傷患者の疼痛管理の経験	日本ペインクリニック学会誌,2023.June; 30;135-137	Case report
46	Iwahara M, Horikoshi Y, Nishiura T, et al.	救急科	雪への埋没を契機に発症した陰圧性肺水腫 症例報告	日本集中治療医学会雑誌,2023.Nov,30; 457-458	Case report
47	Tampo A	救急医学講座	血小板減少の原因としてのDICとTMA併存の可能性	日本救命医療学会雑誌,2023.Dec,37; 75-76	Letter

48	Tampo A	救急医学講座	【最新主要文献とガイドラインでみる 麻酔科学レビュー2023】麻酔科医と救急医療	麻酔科学レビュー,2023.May,2023 ;288-295	Review
49	Okada M	救急医学講座	超音波検査のジェネラリスト	超音波検査のジェネラリス ト,2023.July,Vol50 ; 0213-0214	Others
50	Sato M, Ueno N, Fujiya M. et al.	総合診療部	北海道道北・道東圏内における炎症性腸疾患患者の医療連携構築に向けた課題	日本消化器病学会雑誌(0446-6586)120巻7号 590-601	Original Article
51	Kumata Y, Ueno N, Miyagi H. et al.	総合診療部	低位鎖肛術後糞便性腸閉塞により腹部コンパートメント症候群を呈した1例	日本小児外科学会雑誌(0288-609X)59巻7号 1088-1094	Case report
52	Yokohama Y, Makita Y, Nagaya K. et al.	遺伝子診療カウンセリング室	先天性筋強直性ジストロフィー1型の患児の確定診断をめぐる両親への対応に苦慮した事例-根治的治療法がない疾患の発症前診断につながる可能性への配慮	遺伝子医学. 2023 Jul;45 135-139	Case report
53	Ito A, Nakatsubo M, Yoshino R	乳腺疾患センター	多発性内分泌腫瘍症1型に合併した胸腺神経内分泌腫瘍	胸部外科学会誌 76巻4号 Page324-327(2023.04)	Original Article

54	Yoshino R, Yoshida N, Yasuda S	乳腺疾患センター	左胸部に発生した乳腺紡錘細胞癌との鑑別を要した脱分化型脂肪肉腫の I 例	乳癌の臨床 38巻4号 篠原出版新社2023年 8月31日	Case report
55	Yamashita M, Uno Y, Ogawa R, et al.	病理部	第42回北海道臨床細胞学会 並びに学実集会(2)呼吸器領域	Hokkaido Society of Clinical Cytology. 2024; 30:55-59	Case report
56	Tani Y	経営企画部	DWHを利用した電子カルテ端 末による通知システムの開発	Mumps Journal of M Technology Association Japan Vol.30 31-41 2023 April	Original Article

計56件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の実施に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年29回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年0回
・ 研修の主な内容 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に関する講習、利益相反に関する講習、生命科学・医学系研究の安全性確保に関する講習等の4件の講習をeラーニングにより通年で公開している。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心血管カテーテル治療、先進的肺癌治療、心血管再生療法、不整脈治療、腎炎ネフローゼの集学的治療、糖尿病合併症発症・進展阻止を目指した集学的治療、膵癌・肝癌の集学的治療、膠原病・内分泌疾患における集学的診断治療法、炎症性腸疾患の新規治療、画像強調内視鏡や小腸内視鏡を駆使した診断治療、消化管腫瘍の内視鏡治療、カプセル内視鏡・小腸内視鏡を用いた小腸疾患の診断、小腸癌・リンパ腫をはじめとする小腸疾患の最新治療、造血器悪性腫瘍の診断と治療、難治性白血病に対する造血幹細胞移植、小児救急医療、新生児医療、最先端の弓部大動脈瘤手術、高難度バイパス手術による救肢治療、整容性を考慮した乳房温存手術、最先端の弓部大動脈瘤手術、腹腔鏡補助下消化管癌手術、炎症性腸疾患外科治療、肝胆膵領域高難度手術、人工股関節置換術、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検、上部尿路結石に対する内視鏡的手術、難治性下部尿路機能障害の診断と治療、極小切開白内障手術、難治緑内障に対する手術療法、角膜パーツ移植術、糖尿病網膜症の硝子体手術、超選択的動注化学療法、人工内耳埋め込み術とその管理、音声再建外科、内視鏡手術、胎児超音波診断、高度生殖医療、CT・MRI・US・血管造影・核医学・PET-CTによる総合画像診断、IVR、放射線治療、RI内用療法、マンモグラフィ読影、3Dエコー診断による手術中の心機能評価、高感度超音波診断装置を利用した選択的末梢神経ブロック、薬物シミュレーションを用いた効果部位濃度測定による薬物管理、硬膜外内視鏡を用いた腰下肢痛治療、ニューロナビゲーター支援下脳神経手術、神経内視鏡支援下脳神経手術、難治性てんかんに対する焦点部切除手術、3次救急初療、人工呼吸管理、経食道心エコー、ドクターヘリ講習、気道管理における超音波の利用、超音波ガイド下中心静脈穿刺、超音波による胃内容の評価、周産期救急・敗血症性DICの管理 等

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	90.75 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者 氏名	診療科	役職等	臨床経験 年数	特記事項
佐藤 伸之	内科	教授	39年	内科専門研修プログラム統括責任者
橋岡 禎征	精神科神経科	教授	26年	精神科専門研修プログラム統括責任者
高橋 悟	小児科	教授	33年	小児科専門研修プログラム統括責任者
東 信良	外科	教授	38年	外科専門研修プログラム統括責任者 心臓血管専門医認定施設
紙谷 寛之	外科	教授	27年	心臓血管外科専門医認定施設 心臓血管外科認定修練施設群 修練統括 責任者
北田 正博	外科	教授 (病院)	37年	呼吸器外科専門医修練施設・乳癌学会専 門医認定施設

宮城 久之	外科	講師	22年	小児外科専門医修練施設（小児外科指導医）
横尾 英樹	外科	教授	32年	肝胆膵・移植外科 消化器外科専門医制度指定修練施設
長谷川 公治	外科	講師	28年	消化管外科 消化器外科専門医制度指定修練施設
伊藤 浩	整形外科	教授	37年	整形外科専門研修プログラム統括責任者
岸部 麻里	皮膚科	准教授	27年	皮膚科専門研修プログラム統括責任者
橋田 岳也	泌尿器科	准教授	26年	泌尿器科専門研修プログラム統括責任者
長岡 泰司	眼科	教授	30年	眼科専門研修プログラム統括責任者
片田 彰博	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	准教授	33年	耳鼻科専門研修プログラム統括責任者
加藤 育民	産科婦人科	教授	32年	産婦人科専門研修プログラム統括責任者
沖崎 貴琢	放射線科	教授	27年	放射線科専門研修プログラム統括責任者 放射線診断領域研修統括責任者 放射線治療領域研修統括責任者
牧野 洋	麻酔科蘇生科	教授	26年	麻酔科専門研修プログラム統括責任者
木下 学	脳神経外科	教授	23年	脳神経外科専門研修プログラム統括責任者
竹川 政範	歯科口腔外科	教授	38年	歯科口腔外科アドバンスコース統括責任者
岡田 基	救急科	教授	32年	救急科専門研修プログラム統括責任者
大田 哲生	リハビリテーション科	教授	35年	リハビリテーション科専門研修プログラム統括責任者
林 利彦	形成外科	教授	27年	形成外科専門研修プログラム統括責任者
河端 奈穂子	臨床検査・輸血部	助教	18年	臨床検査専門研修プログラム統括責任者
谷野 美智枝	病理部	教授	31年	病理専門研修プログラム統括責任者
野津 司	総合診療部	教授	36年	総合診療専門研修プログラム統括責任者
中川 直樹	内科	教授	28年	循環器内科領域統括責任者 腎臓内科領域統括責任者 老年科専門研修プログラム統括責任者
澤田 潤	内科	講師	24年	脳神経内科領域統括責任者
佐々木 高明	内科	准教授	24年	呼吸器内科領域統括責任者
牧野 雄一	内科	教授	32年	膠原病・リウマチ内科領域統括責任者

野本 博司	内科	教授	19年	内分泌代謝・糖尿病内科領域統括責任者
藤谷 幹浩	内科	教授	35年	消化器内科領域統括責任者
高橋 秀一郎	内科	講師	15年	血液内科領域統括責任者

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 <u>緩和ケア研修会</u> がん等において適切に緩和ケアが提供されるよう、がん等に携わる医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得し、緩和ケアの質を確保することを目的とする。</li><li>・研修の期間・実施回数 1回</li><li>・研修の参加人数 41名</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 東 信良
管理担当者氏名	総務課長 長谷川 和宏、 人事課長 佐藤 美喜子、 研究支援課長 金森 淳二、 会計課長 石川 裕司、 経営企画課長 石坂 貴光、 医療支援課長 見上 直樹、 医事課長 遠藤 克紀、 看護部長 井戸川 みどり、 薬剤部長 田崎 嘉一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経営企画課	
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	医事課	
		紹介状	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	経営企画課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	総務課 人事課 経営企画課	
		閲覧実績	経営企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	人事課
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	人事課
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	会計課
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	人事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	経営企画課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	高難度医療管理センター
		監査委員会の設置状況	経営企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	人事課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画    ② 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長(病院担当) 郡 英男
閲覧担当者氏名	経営企画課長 石坂 貴光
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室(緑が丘テラス2階)
閲覧の手続の概要 ①経営企画課病院総務係で閲覧申込(申込者、閲覧理由等を記入)を受ける。 ②事務局次長(病院担当)の承認を受ける。 ③指定した日時に会議室で閲覧(担当係員立会)。 ④閲覧終了後、担当係員に返却し、担当係員は閲覧事項等を報告する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>(1)安全管理の基本理念</li> <li>(2)安全管理組織体制の整備</li> <li>(3)安全管理のための職員研修に関する基本指針</li> <li>(4)部門の長の管理責任の明確化</li> <li>(5)診療マニュアルの活用（本編・携帯ポケットマニュアル）</li> <li>(6)インシデントと医療事故の用語の定義</li> <li>(7)インシデント報告体制</li> <li>(8)医療事故等発生時の基本指針と対応</li> <li>(9)死亡事例報告体制</li> <li>(10)医療相談窓口の設置</li> <li>(11)実習生および研修生の医療安全に係る基本方針</li> <li>(12)その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> <li>(13)その他（本指針の改正・閲覧）</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有・無）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>(1)医療安全管理全般の検討及び推進に関すること</li> <li>(2)医療に係る安全管理のための啓発、広報、教育及び研修に関すること</li> <li>(3)医療に係る安全管理のための指針を含む医療事故防止対策マニュアルに関すること</li> <li>(4)本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>(5)(4)の分析結果を活用した医療安全の確保及び改善方策の立案、実施並びに従業者への周知に関すること</li> <li>(6)(5)における改善方策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること</li> <li>(7)死亡退院事例等の報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること</li> <li>(8)(7)に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導に関すること</li> <li>(9)医療業務の安全管理に係る病院としての提言に関すること</li> <li>(10)その他医療事故を含む医療安全管理に関すること</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>別紙のとおり</li> </ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - (1) 「診療マニュアル第15版」「医療安全ポケットマニュアル(第17版)」を発行した。
  - (2) 各部署から報告のあった全インシデントレポートを医療安全管理部専任リスクマネジャーが確認や分析・検討を行い、必要なものは医療安全管理部会議、リスクマネジャー連絡会議及び医療安全管理委員会で定期的に報告している。
  - (3) 改善が必要と認められるインシデント事例においては、各部署に医療安全管理部から改善策の策定を依頼し、改善策が策定された後も、その実践について、定期的に評価をしている。
  - (4) 2か月に1度、医療安全管理部専任リスクマネジャーによるラウンドを行い事故防止のための状況把握に努めている。
  - (5) 重要診断情報伝達漏れ防止システムによる運用を開始し、画像読影レポートや病理診断レポートの未読、未説明の把握に努め、重大な見逃し事例が生じないように確認をしている。
  - (6) 薬剤師からの疑義照会のデータベースを定期的にモニタリングし、有用な情報については提示・共有をしている。
  - (7) 医薬品医療機器総合機構・日本医療機能評価機構、日本医療安全調査機構等から発信される、医療安全情報、医療事故の再発防止に向けた提言などの院内周知を実施している。
  - (8) 医療事故報道の院内周知を実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・感染制御部・ICTなどの組織的な取組み</li> <li>・ 院内感染対策のための職員研修に対する基本指針</li> <li>・ 感染症発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>・ 院内感染の予防に関すること</li> <li>・ 院内感染の情報収集に関すること</li> <li>・ 感染源の追及等のための検査実施に関すること</li> <li>・ 防疫対策の確立に関すること</li> <li>・ HIV感染症の医療体制に関すること</li> <li>・ その他、院内感染対策についての重要事項に関すること</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 14 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： 別紙のとおり</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネジャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌種の遺伝子検査を実施し、同一菌種による発症事例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。</li> <li>・ 感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護具の着脱演習」について、病院職員全体に実施している。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置している。1ヶ月に4回以上定期の院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行っている。</li> <li>・ ICTに所属する感染制御部員により組織された抗菌薬適正使用支援チーム（以下AST）にて、1ヶ月に4回以上のASTラウンド等を実施し、院内における抗菌薬適正使用に関する具体的な事項の提案、評価等を行い、必要な抗菌薬適正使用支援を実施する。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 別紙のとおり</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 ( <input checked="" type="checkbox"/>有・無 )</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理</li> <li>(5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 臨床検査・画像診断部門における医薬品使用</li> <li>(7) 外来患者への医薬品使用 (8) 入院患者への医薬品使用 (9) 麻薬管理 (10) 院内製剤</li> <li>(11) 他施設との連携 (12) 医療事故防止および発生時の対応 (13) 教育・研修 (14) 副作用被害救済制度の周知</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/>有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：オメガベン・院内製剤 (払出実績：45製剤)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全情報</li> <li>(2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update</li> <li>(3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</li> <li>(4) 国内外の臨床試験・症例報告などの情報</li> <li>(5) Risk Management Plan (RMP)情報の活用など</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 14 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 別紙のとおり</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検</li> <li>(2) 人工呼吸器の始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検</li> <li>(3) 血液浄化装置の始業点検及びメーカーによる定期点検</li> <li>(4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検</li> <li>(5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検</li> <li>(6) 保育器の日常点検、定期的な点検</li> <li>(7) 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、X線撮影装置、MRI装置、核医学撮影装置の始業・終業点検及び定期点検、装置の品質維持管理</li> <li>(8) 業者による定期保守点検 <ol style="list-style-type: none"> <li>①診療用高エネルギー放射線発生装置 ②診療用放射線照射装置</li> <li>③造影剤注入装置 ④MRI装置</li> </ol> </li> <li>(9) 業者に対する機器故障時のオンコール</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 血液浄化用カテーテルのECMOでの使用について</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報収集の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 医療機器に関する情報提供のホームページを活用</li> <li>② 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の登録</li> <li>③ メーカー主催のメンテナンス講習会への参加</li> <li>④ 医療機器に関連する学会への参加</li> <li>⑤ メーカー担当者からの報告及び情報の収集</li> </ol> </li> <li>(2) 情報の周知 <ol style="list-style-type: none"> <li>① ME機器セミナーによる報告</li> <li>② 文書配付による通知</li> <li>③ メーカー担当者から関連部署への通知の依頼</li> <li>④ 研修時の定期報告と確認</li> <li>⑤ 記録簿等の報告と確認</li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理部長である。医療安全管理責任者を委員長とするリスクマネージャー連絡会議には、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が出席しており、管理状況を把握している。また、医療安全管理責任者は、病院長を委員長とする医療安全管理委員会においてリスクマネージャー連絡会議の内容を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「リスクマネージャー連絡会議資料」に医薬品の安全性に関する注意喚起情報（安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品適正使用に関する通知、安全対策に関する通知）、その他必要な通知等を添付し全部署に回覧する。また、閲覧後に閲覧者のサインを求める。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の処方せんを扱う場合、薬学的知見に基づき疑義照会を行い、調剤した場合、その旨を疑義照会データベースに記録する。医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師等は、定期的にデータベースより未承認等の医薬品の使用状況を確認し、必要なものは医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：医療安全管理部/薬剤部、職種 薬剤師） （所属： 、職種 ）</p> <p>（所属： 、職種 ） （所属： 、職種 ）</p> <p>（所属： 、職種 ） （所属： 、職種 ）</p> <p>（所属： 、職種 ） （所属： 、職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）</p>	

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容  
 : 診療記録監査において、患者に説明を行った場合の診療録の記載状況、説明書・同意書の保存状況を確認し、その結果を診療科へ通知するとともに、各種委員会等（診療情報管理委員会、病院運営委員会、医長連絡会）において報告している。また、別途、インフォームド・コンセント委員会で、説明書・同意書の審査を行い、内容の把握・確認に努めている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>各診療科の医師及び部門（看護師、技師、診療情報管理士等）から選出された診療記録監査委員が、毎月2グループ（診療科を23のグループに分け実施）5症例ずつ計10症例において、当院で定めている項目に沿って監査を行っている。また、結果については、病院長、診療情報管理委員長、医療安全管理部長の確認（決裁）を経て、診療科（科長、医長）へフィードバックしているほか、病院運営委員会において、改善が必要な項目については病院長から定期的に報告をすることとした。尚、監査項目は、日々の記載状況、患者や家族への説明状況（内容）、同意書の記載内容、退院時要約や手術記録の記載内容、臨床研修医や医学実習生の記事記載後のカウンターサイン（承認の有無）など34項目の詳細な監査を実施し診療記録の向上に努めている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（13）名      うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（9）名      うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名      うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療の質の向上及び安全に関する事項</li> <li>(2) インシデントレポート等に関する調査・分析</li> <li>(3) 医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知</li> <li>(4) 医療調査委員会開催の要否</li> <li>(5) 院内各部署における医療安全管理状況の点検</li> <li>(6) 医療の安全性に係る教育および研修</li> <li>(7) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知</li> <li>(8) 医療事故防止対策マニュアルの見直し</li> <li>(9) 医療安全に関する院外への情報提供</li> </ol>	

(10) 医療事故等に関する診療録、看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導の実施

(11) 患者及び家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導の実施

(12) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導の実施

(13) 医療安全に係る連絡調整

(14) 医療安全確保のための対策の推進

(15) 死亡事例判定委員会開催の判断

(16) その他医療安全に関する事項

・ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容：

・ 内容分類別（薬剤、輸血、治療・処置・手術、医療機器、ドレーン・チューブ類、検査、療養上の場面等）のインシデント事例を抽出し、傷害レベルを含めて状況を把握している。

・ 重要診断情報伝達漏れ防止システムを用いて、画像読影レポート及び病理診断レポートの未読、未説明件数を抽出し、状況を把握している。

・ 薬剤師からの疑義照会をデータベース化し、定期的にモニタリングをして状況を把握している。

・ 従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例：

平時から医療安全研修における受講状況を確認し、また、受講時に確認テストを行い、知識の習熟度・達成度の確認をしている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

1. 申請受理

2. 高難度新規医療技術評価委員会への付議

3. 申請された技術等の提供の可否等の決定

4. 結果通知

5. 定期監査（遵守状況の確認）

6. 定期報告（遵守状況を管理者へ報告）

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（15件）、及び許可件数（14件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
  1. 申請受理
  2. 未承認新規医薬品等評価委員会・未承認新規医療機器等評価委員会への付議
  3. 申請された技術等の提供の可否等の決定
  4. 結果通知
  5. 定期監査（遵守状況の確認）
  6. 定期報告（遵守状況を管理者へ報告）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 251 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 129 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - (1) 医療安全管理全般の検討及び推進に関すること
  - (2) 医療に係る安全管理のための啓発、広報、教育及び研修に関すること
  - (3) 医療に係る安全管理のための指針を含む医療事故防止対策マニュアルに関すること
  - (4) 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析に関すること
  - (5) (4)の分析結果を活用した医療安全の確保及び改善方策の立案、実施並びに従業者への周知に関すること
  - (6) (5)における改善方策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること
  - (7) 死亡退院事例等の報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること
  - (8) (7)に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導に関すること
  - (9) 医療業務の安全管理に係る病院としての提言に関すること
  - (10) その他医療事故を含む医療安全管理に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：山梨大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：愛媛大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況

医療安全管理部門の専従者を代替し得る職員の配置や、医薬品安全管理責任者、薬剤師 GRM の業務負担を軽減するための工夫について助言があり、対応を協議中である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者・家族等からの相談及び苦情等に適切に応じるため医療相談窓口を設置している。相談及び苦情等のうち、医療の安全に係る内容のものは、本院の安全対策等の見直しにも活用している。医療相談窓口の責任者は、医療安全管理部にも所属しており、情報共有を図っている。また、相談したことにより患者・家族等に不利益が発生しないよう配慮している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

従前から事故防止啓発部会主催で実施している「医療安全に関する研修」の内容において、必要な内容を網羅している。

- ・別紙のとおり

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する令和5年度特定機能病院管理者研修  
参加者：管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況

令和2年2月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、医療安全の分野においては、一定の水準に達しているもしくはそれ以上であると評価された。

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

本学ホームページにて、改善の取組事項を公表している。

- ・評価を踏まえ講じた措置

主要な検査や治療を行う患者に対する説明と同意の質を高めるため、インフォームド・コンセントの審査承認体制を構築し運用している。同時に、他職種の間ととも同席ルールを策定し、同席の向上と更なる改善を目的として、電子カルテと手術患者情報管理システムを用いた同席の実態把握のための体制を構築し運用している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

③	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況
1	放射線業務従事者 教育訓練
2	医療安全基本研修Ⅰ（初任者・臨床研修医・新任薬剤師）
3	医療安全基本研修Ⅰ（再任者・中途採用者）
4	医療安全基本研修Ⅰ
5	医療安全基本研修Ⅱ
6	安全管理研修（管理者・部署RM（連絡会議））
7	第1回ME機器セミナー
8	インスリンに関する医療安全研修
9	RCA「事例から学ぶ」
10	放射線安全管理研修
11	特別講演会
12	医療安全合同セミナー（第2回ME機器セミナー、臨床検査・輸血部セミナー）
13	「各部門における安全への取り組み」実践報告会
14	トピックス研修
15	薬剤部新入職員研修
16	オリエンテーション（旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム） ・医療安全管理について
17	第1回 医薬品安全管理セミナー
18	第2回 医薬品安全管理セミナー

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
1	感染対策研修（講義） 講師：感染制御 医師
2	正しい手指衛生とPPEの着脱演習 講師：感染制御部 医師・看護師
3	採用者に対する病院感染防止教育 講師：感染制御部 各職種
4	令和5年度 看護部初任者研修（講義） 講師：感染制御部 看護師
5	令和5年度 看護部初任者研修（手洗い演習） 講師：感染制御部 看護師
6	医療安全・感染対策マネジャー連絡会議 「医療安全ポケットマニュアル」
7	「正しい手指衛生とPPE着脱」推進のための各部署教育担当者実技演習 講師：感染制御部 医師・看護師
8	抗菌薬適正使用に係る研修(1回目)
9	各部署教育「正しい手指衛生とPPE着脱演習」
10	講演会 「子宮頸がんに対するHPVワクチン うつ？うたない？」 講師：産婦人科学講座 横浜祐子先生、板橋彩先生
11	抗菌薬適正使用に係る研修(2回目)
12	中途採用者に対する病院感染防止教育
13	薬剤部新入職員研修
14	オリエンテーション（旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム） ・手洗い演習

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
1	薬剤部新入職員研修
2	薬剤部勉強会 (DMAT)
3	薬剤部勉強会 (感染)
4	薬剤部勉強会 (がん)
5	薬剤部勉強会 (NST)
6	薬剤部勉強会 (医療安全)
7	薬剤部勉強会 (感染)
8	薬剤部勉強会 (糖尿病)
9	薬剤部勉強会 (HIV)
10	薬剤部勉強会 (治験)
11	薬剤部勉強会 (がん)
12	薬剤部勉強会 (NST)
13	オリエンテーション (旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム) ・ 薬剤実習

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
1	放射線発生装置の定期点検後の報告と精度管理研修
2	線源交換時研修
3	放射線発生装置の定期点検後の報告と精度管理研修
4	診療用放射線照射装置の定期点検後の装置の報告と精度管理研修
5	線源交換時研修
6	放射線発生装置の定期点検後の報告と精度管理研修
7	放射線発生装置の定期点検後の報告と精度管理研修
8	線源交換時研修
9	診療用放射線照射装置の定期点検後の装置の報告と精度管理研修
10	人工心肺・補助循環装置
11	人工呼吸器
12	血液浄化装置
13	除細動器
14	オリエンテーション（旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム） ・輸液・シリンジポンプの使い方

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

⑫	職員研修の実施状況
1	放射線業務従事者 教育訓練
2	医療安全基本研修Ⅰ（初任者・臨床研修医・新任薬剤師）
3	医療安全基本研修Ⅰ（再任者・中途採用者）
4	医療安全基本研修Ⅰ
5	医療安全基本研修Ⅱ
6	安全管理研修（管理者・部署RM（連絡会議））
7	第1回ME機器セミナー
8	インスリンに関する医療安全研修
9	RCA「事例から学ぶ」
10	放射線安全管理研修
11	特別講演会
12	医療安全合同セミナー（第2回ME機器セミナー、臨床検査・輸血部セミナー）
13	「各部門における安全への取り組み」実践報告会
14	トピックス研修
15	薬剤部新入職員研修
16	オリエンテーション（旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム） ・医療安全管理について
17	第1回 医薬品安全管理セミナー
18	第2回 医薬品安全管理セミナー

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容</li> <li>● 病院長候補者選考基準に関する規程 <ul style="list-style-type: none"> <li>※以下の要件を満たす者</li> <li>○ 医師免許を有している者</li> <li>○ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</li> <li>○ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>○ 旭川医科大学病院の使命を遂行するために必要な資質・能力を有してし</li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページに掲載</li> </ul> </li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページに掲載</li> </ul> </li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
奥村 利勝	理事	○	病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第1号に基づく理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
川辺 淳一	副学長 (教授 生化学講座)		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第2号に基づく副学長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

藤谷 幹浩	教授 内科学講座 (病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野(消化器・内視鏡学部門))		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第3号に基づく病院運営委員会構成員	有・無
竹川 政範	教授 歯科口腔外科学講座		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第3号に基づく病院運営委員会構成員	有・無
原田 直彦	旭川信用金庫理事長		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第4号に基づく学外の有識者  本学の経営協議会の委員として、本院の経営についてご理解いただいております、民間企業における豊富な経験と高い識見を有している。	有・無
白井 恵理子	NPO 法人旭川文学資料友の会副会長、 神楽神経科内科医院理事・事務長、 旭川美術振興会理事・副会長		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第4号に基づく学外の有識者  本学の経営協議会の委員として、本院の経営についてご理解いただいております、旭川市の医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有している。	有・無
吉原 秀昭	事務局長		病院長候補者選考委員会規程第3条第1項第5号に基づくその他学長が必要と認める者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営に関する重要事項を審議する。</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 委員会を原則として毎月1回定例会議を開き、ホームページに資料を掲載している。 また、議事要旨を委員に配信している。</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページに掲載</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有・<input type="checkbox"/> )</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
東 信良	○	医師	病院長
中川 直樹		医師	内科長 (循環器・腎臓)
野本 博司		医師	内科長 (内分泌・代謝・膠原病)
藤谷 幹浩		医師	内科長 (消化器)
橋岡 禎征		医師	精神科神経科長
高橋 悟		医師	小児科長
紙谷 寛之		医師	外科長 (心臓大血管)
横尾 英樹		医師	外科長 (肝胆膵・移植)
伊藤 浩		医師	整形外科長
長岡 泰司		医師	眼科長
高原 幹		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
加藤 育民		医師	産科婦人科長
沖崎 貴琢		医師	放射線科長
牧野 洋		医師	麻酔科蘇生科長
木下 学		医師	脳神経外科長
竹川 政範		医師	歯科口腔外科長
岡田 基		医師	救急科長
大田 哲生		医師	リハビリテーション科長
林 利彦		医師	形成外科長
坂本 央		医師	臨床検査・輸血部長

林 達哉		医師	手術部長
谷野 美智枝		医師	病理部長
小北 直宏		医師	集中治療部長
野津 司		医師	総合診療部長
長屋 建		医師	周産母子センター長
田邊 裕貴		医師	腫瘍センター長
北田 正博		医師	乳腺疾患センター長
田崎 嘉一		薬剤師	薬剤部長
井戸川 みどり		看護師	看護部長
宗万 孝次		臨床工学技士	診療技術部長
吉原 秀昭		事務	事務局長
成田 憲隆		事務	事務局次長（総務・教務担当）
郡 英男		事務	事務局次長（病院担当）
齊藤 江里香		医師	超音波画像診断センター長
澤田 康司		医師	肝疾患相談支援室長
本間 大		医師	遠隔医療センター長
佐藤 伸之		医師	専門医・育成管理センター長
牧野 雄一		医師	卒後臨床研修センター長
松本 成史		医師	臨床研究支援センター長
蒔田 芳男		医師	遺伝子診療カウンセリング室長
水上 裕輔		医師	消化器内科教授
古川 博之		医師	理事、副学長（財務、評価、医師の働き方改革担当）
奥村 利勝		医師	理事（入試、教育、人事・組織）
辻 泰弘		事務	理事（社会連携担当）
佐古 和廣		医師	理事（地域医療担当）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
  - ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
  - 病院規程
  - 病院運営に必要な指導力を発揮し、医療安全等を確保するため医療法に定める病院の管理運営に係る職務権限を有する。
  - 大学の管理運営に影響のない範囲において病院の管理運営のために必要な人事及び予算執行権限を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - 病院長補佐会議
    - 病院長、副病院長、病院長補佐、経営企画部長、事務局次長（総務・教務担当）、事務局次長（病院担当）で構成され、本院の管理運営及び経営改善等に関する企画立案を行い、本院の円滑な運営に資することを目的とする。
    - 副病院長は「外来・入退院担当」、「多職種連携担当」、「病院経営、医療機器担当」、「事故防止担当」、「安全問題、患者サービス、ボランティア担当」。
    - 病院長補佐は、「医療従事者教育担当」、「臨床研修担当」、「臨床倫理担当」。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - 大学病院経営分析ワークショップ

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行うこと。</p> <p>(2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を具申すること。</p> <p>(3) 前2号に掲げる業務について、その結果を公表すること。</p> <p>(4) その他医療安全管理の監査に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：本学ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石井 良直	市立旭川病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	(注) 1.
黒川 伸一	旭川市立大学		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	(注) 1.
鈴木 歩	自営業		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	(注) 2.
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人旭川医科大学コンプライアンス規程」を平成29年2月7日に制定し、病院を含む国立大学法人全体の内部規定や組織体制、通報窓口といったコンプライアンスに係る体制を整備している。

令和4年1月1日からは公益通報の外部窓口も設置し、より通報しやすい体制を整えている。

また、役職員に対し、コンプライアンスの重要性に関する認識を高め、遵守すべき法令等に関する理解を深めるために、毎年、研修会を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

本学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況  役員会を開催し、月次の病院の状況を含む大学全体の経営状況を報告している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）（ 年0回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 通報件数 (年 1 件)</li> <li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 周知の方法     本学ホームページに掲載</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ (発信方法) 大学概要、病院ホームページ、入院のしおり、外来診療のご案内、院内掲示にて発信</li><li>○ (概要) 基本理念、目標、医療体制、評価指標、先進医療</li></ul>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ チーム医療を推進し、複数の診療科や中央診療施設等が連携し、全人的医療の提供を実施</li><li>○ 患者の病状に応じ充実した医療を提供できるよう、複数診療科における症例検討会の実施 (手術、化学療法、放射線治療等)</li><li>○ 救急科、総合診療部を受診した複数診療科領域の患者に対し、専門領域の臓器別診療科と連携</li><li>○ 医療安全等に関し、医療の質の向上等のため、組織横断的に担う実働的な組織として医療安全管理部及び各種委員会を設置</li><li>○ 専任リスクマネージャーの配置等、病院全体で連携</li><li>○ 院内感染対策に関し、感染制御部及び各種委員会を設置</li></ul>	